

教育委員会定例会日程

令和7年3月26日

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長諸報告

4 議案

第4号議案 長岡京市教育委員会事務局組織規則の一部改正について

5 報告事項

- ・長岡京市教育委員会事務決裁規程の一部改正について (教育総務課)
- ・令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の公表について (学校教育課)
- ・第2期長岡京市スポーツ推進計画の策定について (文化・スポーツ振興課)

6 主な行事・会議結果報告

7 次回定例会までの主な行事・会議予定

8 意見交換

9 閉会

第 4 号議案

長岡京市教育委員会事務局組織規則の一部改正について

長岡京市教育委員会事務局組織規則（昭和 4 6 年長岡京市教育委員会規則第 2 号）の一部を別紙のとおり改正することについて、教育委員会の議決を求める。

令和 7 年 3 月 2 6 日提出

長岡京市教育委員会

教育長 西 村 文 則

（提案理由）

新たな職の設置及び地域学校協働本部の新設等に伴い、規則の一部を改正する必要があるので提案する。

長岡京市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則

長岡京市教育委員会事務局組織規則（昭和４６年長岡京市教育委員会規則第２号）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
（指導主事及び社会教育主事等） 第４条の２ 事務局に指導主事又は社会教育主事を置き、総括指導主事、社会教育指導員、人権教育指導員、英語指導助手、<u>国際理解教育交流指導員、国際理解教育交流コーディネーター</u>、外国語教育コーディネーター、文化コーディネーター及び生涯学習相談員を置くことができる。 ２・３ 【略】 ４ 総括指導主事、社会教育指導員、人権教育指導員、英語指導助手、国際理解教育交流指導員、<u>国際理解教育交流コーディネーター</u>、外国語教育コーディネーター、文化コーディネーター及び生涯学習相談員の職務については、別に定める。 （事務分掌） 第６条 第２条に規定する室、課、係及び担当の事務分掌は、次のとおりとする。 教育総務課 【略】 学校教育課 【略】 生涯学習課 生涯学習係 (1)～(13) 【略】 <u>(14) 地域学校協働本部に関すること。</u> <u>(15)～(19) 【略 号の繰下げ】</u> <u>(20) 放課後児童クラブ及びすくすく教室の事業間の連携に関すること。</u>	（指導主事及び社会教育主事等） 第４条の２ 事務局に指導主事又は社会教育主事を置き、総括指導主事、社会教育指導員、人権教育指導員、英語指導助手、国際理解教育交流指導員、外国語教育コーディネーター、文化コーディネーター及び生涯学習相談員を置くことができる。 ２・３ 【略】 ４ 総括指導主事、社会教育指導員、人権教育指導員、英語指導助手、国際理解教育交流指導員、外国語教育コーディネーター、文化コーディネーター及び生涯学習相談員の職務については、別に定める。 （事務分掌） 第６条 第２条に規定する室、課、係及び担当の事務分掌は、次のとおりとする。 教育総務課 【略】 学校教育課 【略】 生涯学習課 生涯学習係 (1)～(13) 【略】 【加える】 <u>(14)～(18) 【略】</u> <u>(19) 放課後子ども総合プランに基づく、放課後児童クラブ及びすくすく教室の事業間の連携に関すること。</u>

改正後	改正前
<u>(21)</u> ・ <u>(22)</u> 【略 号の繰下げ】 放課後児童クラブ担当 【略】 文化・スポーツ振興課 【略】 文化財保存活用課 【略】	(20) ・ <u>(21)</u> 【略】 放課後児童クラブ担当 【略】 文化・スポーツ振興課 【略】 文化財保存活用課 【略】

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

【報告事項】

- ・ 長岡京市教育委員会事務決裁規程の一部改正について
(教育総務課)
- ・ 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の公表について
(学校教育課)
- ・ 第2期長岡京市スポーツ推進計画の策定について
(文化・スポーツ振興課)

長岡京市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令

長岡京市教育委員会事務決裁規程（令和３年長岡京市教育委員会教育長訓令第２号）の一部を次のように改正する。

改正後					改正前								
別表第 2 （第 5 条関係）					別表第 2 （第 5 条関係）								
個別事務に係る決裁・専決事項					個別事務に係る決裁・専決事項								
1 教育総務課 【略】					1 教育総務課 【略】								
2 学校教育課 【略】					2 学校教育課 【略】								
3 生涯学習課					3 生涯学習課								
事項		決定区分			摘要		事項		決定区分			摘要	
		課長	部長	教育 長					課長	部長	教育 長		
1 ～ 7 【略】					1 ～ 7 【略】								
8 学校施設を利用する社会教育に関する こと。					8 学校施設を利用する社会教育に関する こと。								
9 地域学校協働					【加える】								
本部に関するこ													
と。													
1) 重要と		○											
認められ るもの													
2) 軽易と		○											
認められ るもの													
1 0 ～ 1 7 【略 項の繰下げ】					9 ～ 1 6 【略】								
4 文化・スポーツ振興課 【略】					4 文化・スポーツ振興課 【略】								
5 文化財保存活用課 【略】					5 文化財保存活用課 【略】								

附 則

この訓令は、令和７年４月１日から施行する。

令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果 について

スポーツ庁が実施した「令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、長岡京市の結果の概要をお知らせします。

調 査 の 概 要

1 調査の実施期間

令和6年4月～7月

2 対象となる児童生徒

小学校5年生・中学校2年生

※ 義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の該当学年を含む。

3 調査内容

【児童生徒に対する調査】

ア 実技に関する調査

小学校：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

中学校：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子1500m、女子1000m）又は20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等に関するもの）

【学校に対する質問紙調査】

子どもの体力の向上や運動習慣の確立に向けた学校の取組等に関するもの

実技に関する調査の結果

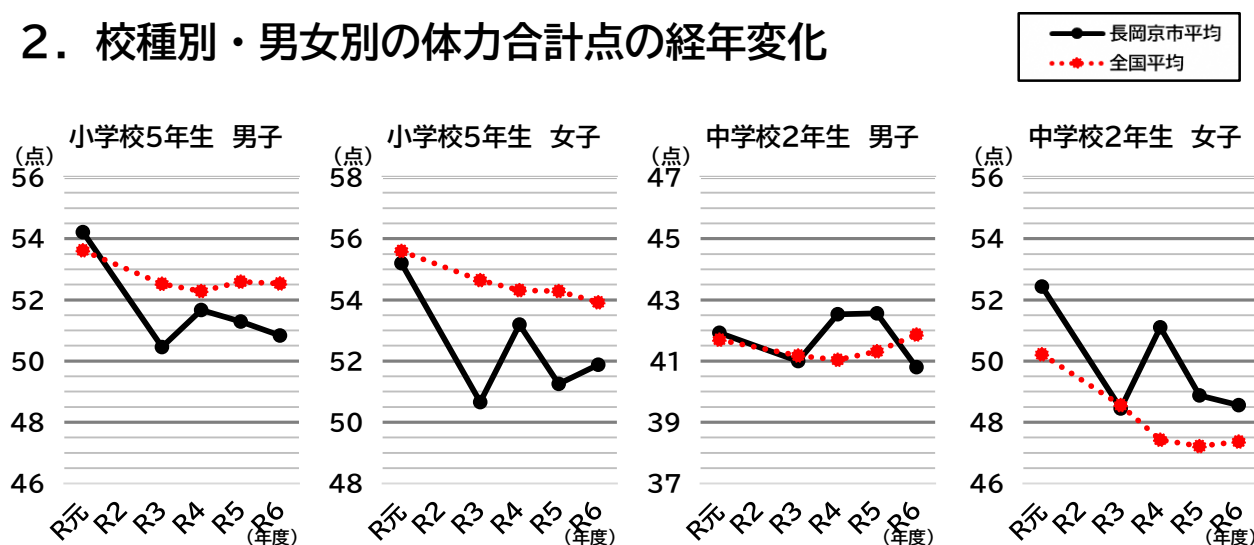
(※令和2年度は、調査中止のため、データなし)

1. 体力合計点

※8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した体力テストの合計得点(80点満点)

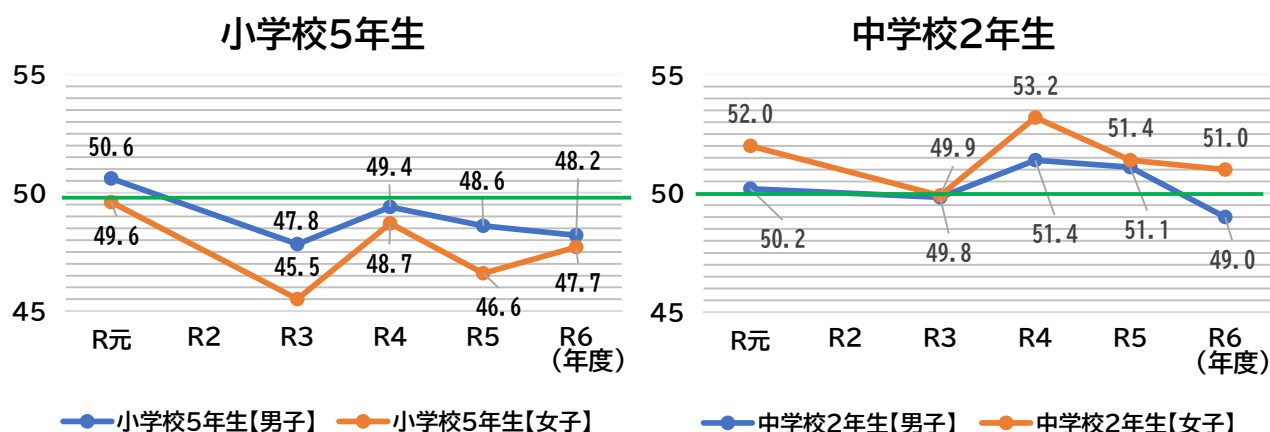
	小5男子	小5女子	中2男子	中2女子
長岡京市平均	50.83	51.88	40.80	48.56
全国平均	52.53	53.92	41.86	47.37

2. 校種別・男女別の体力合計点の経年変化



3. 全国と比較した体力合計点の経年変化

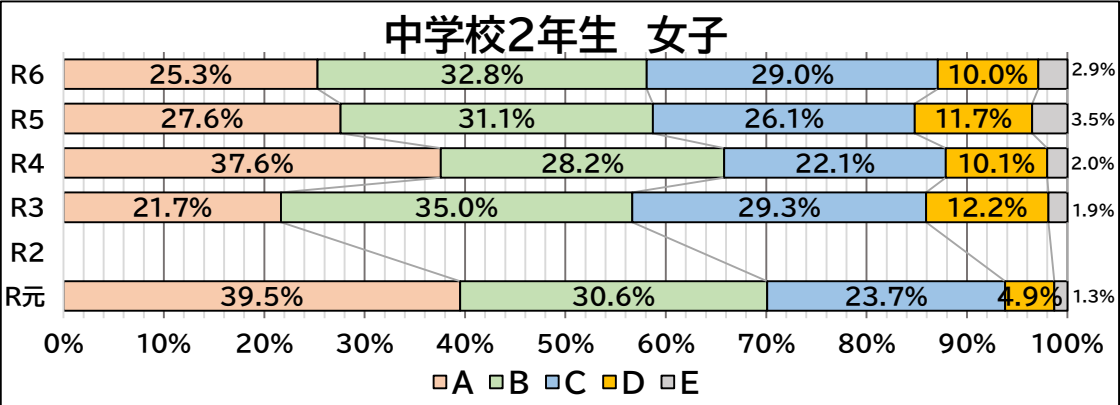
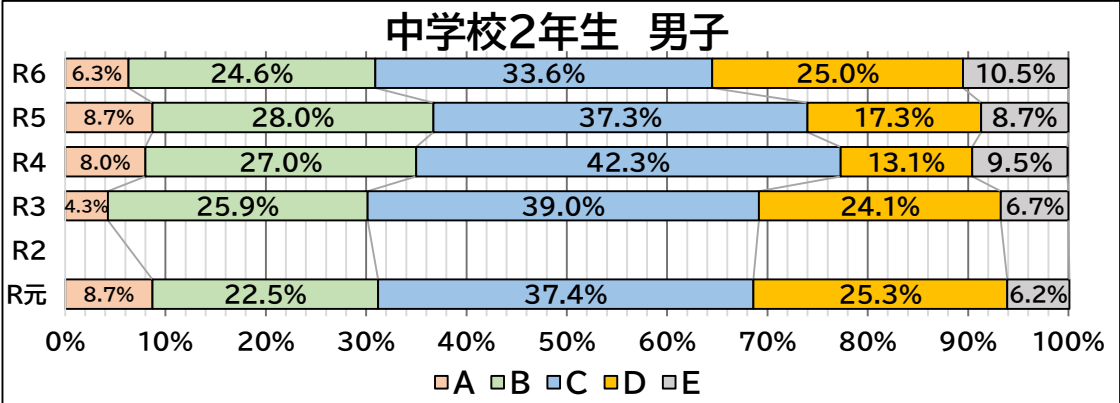
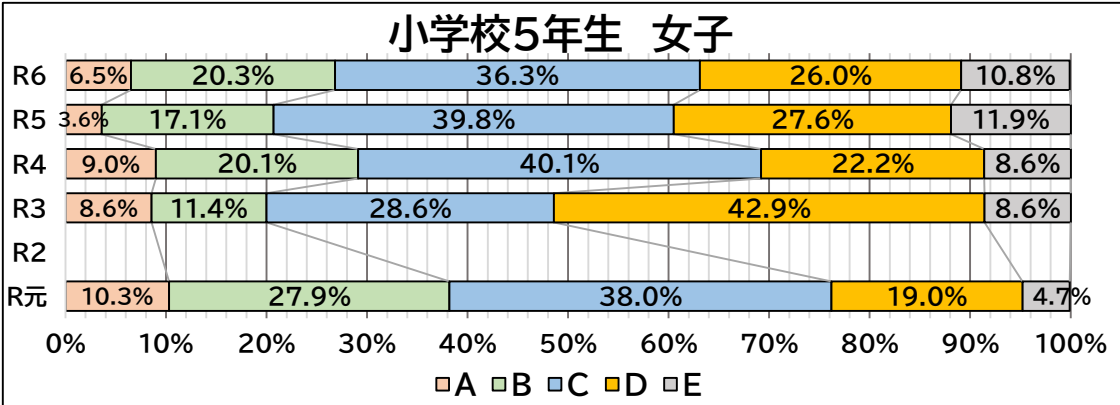
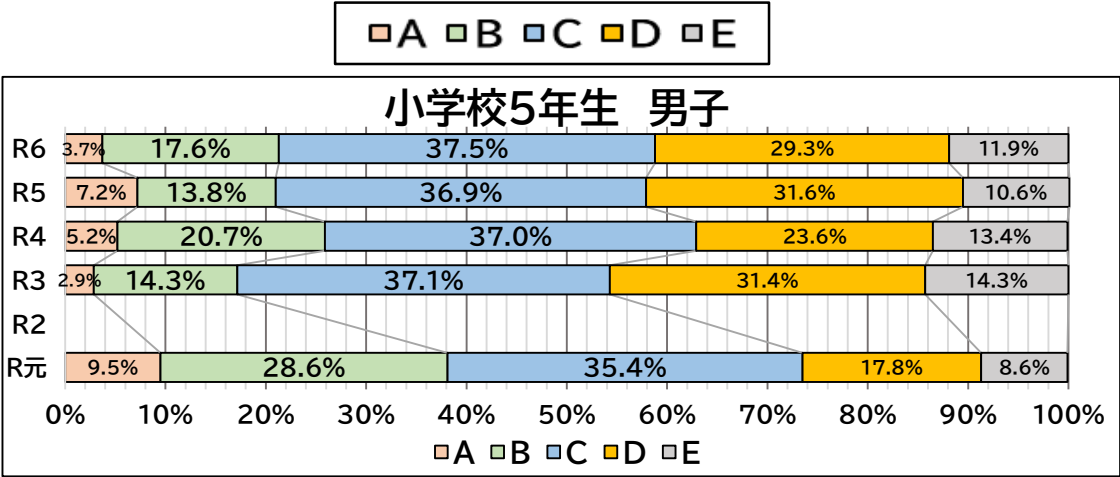
※全国平均値を50としたときの相対的な位置の変化



- ・令和6年度の体力合計点について、中学校2年生女子は全国平均を上回ったが、小学校5年生男子・女子、中学校2年生男子で全国平均を下回りました。
- ・令和5年度の体力合計点と比較すると、小学校5年生女子は上回ったが、小学校5年生男子、中学校2年生男子・女子は下回りました。

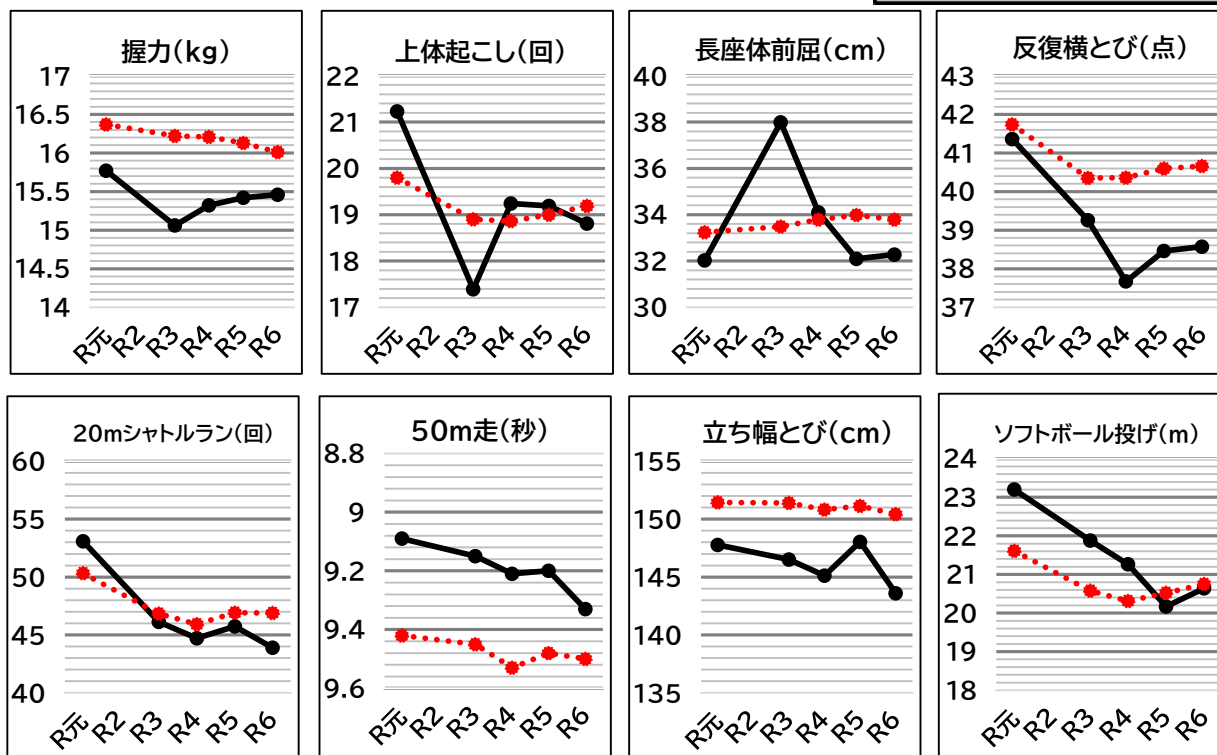
4. 総合評価の経年変化

※ 総合評価…体力テスト合計得点の良い方からA B C D Eの5段階で評定

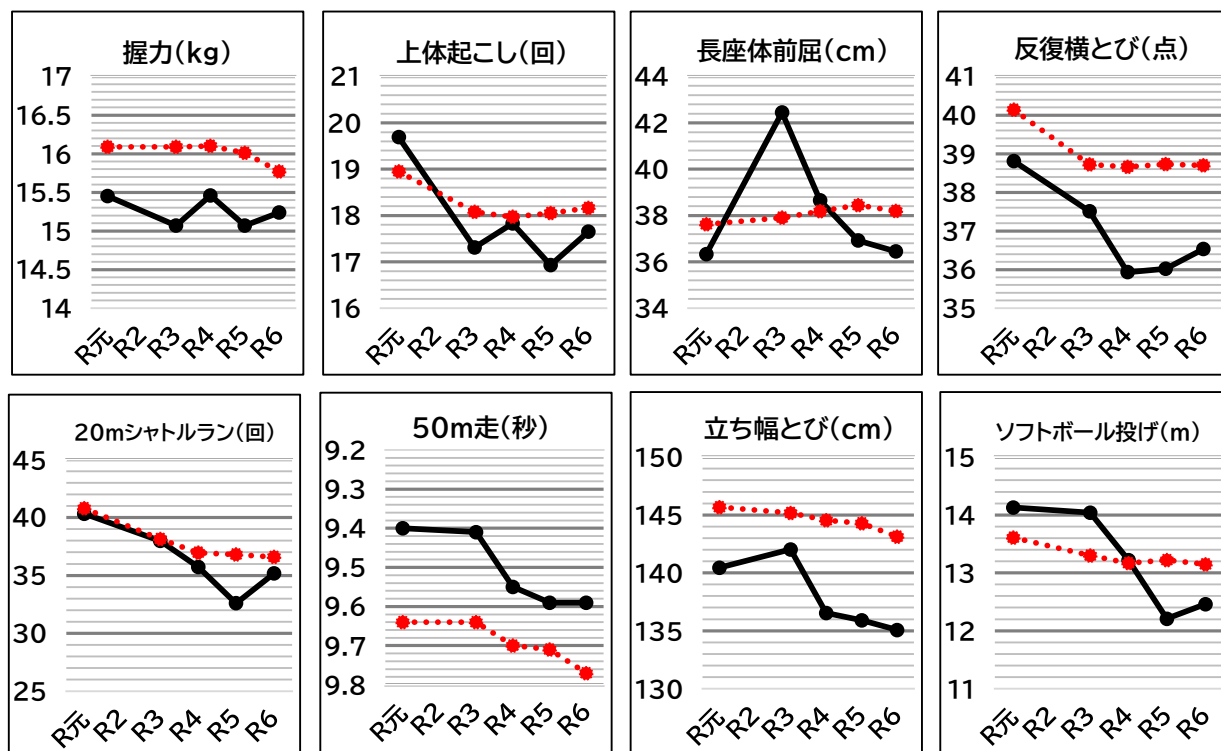


5. 種目別の状況

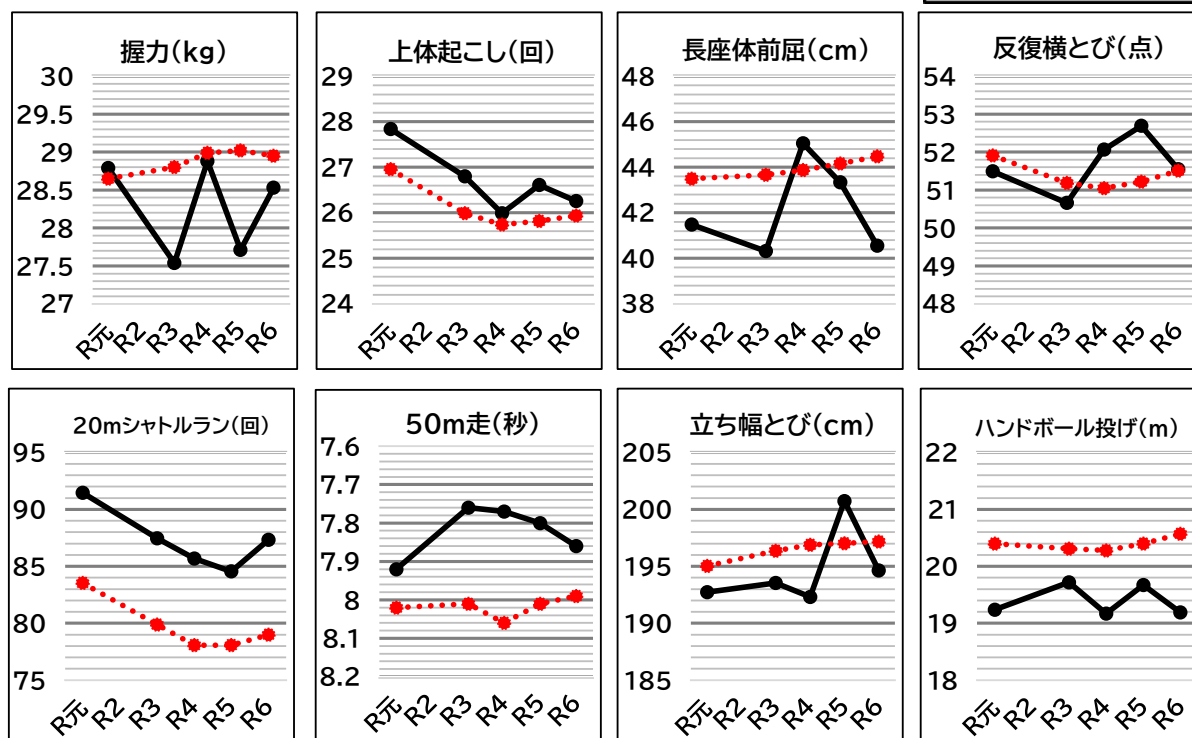
(1) 小学校5年生 男子



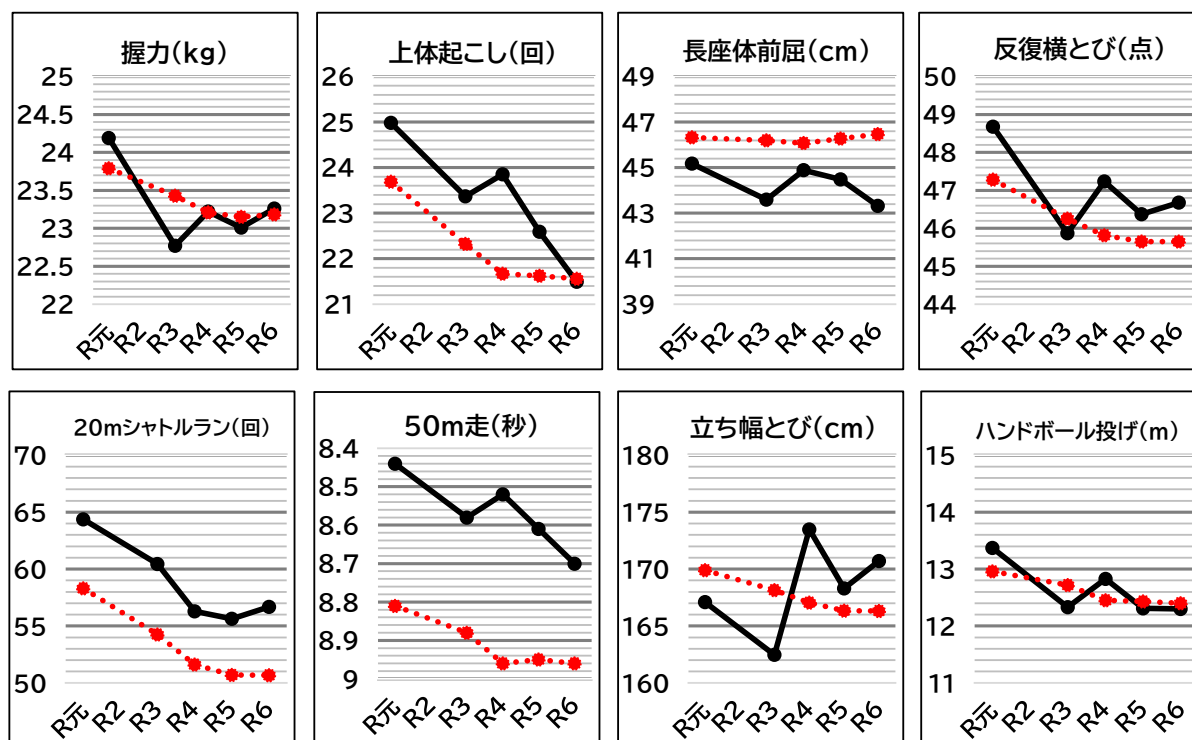
(2) 小学校5年生 女子



(3) 中学校2年生 男子



(4) 中学校2年生 女子



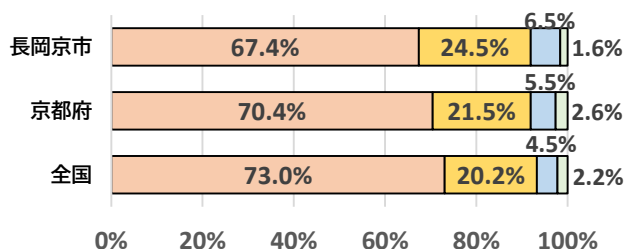
- ・種目別に見ると、「50m走」は、小中学校男女ともに全国平均を上回りました。また、中学校では、小学校に比べて、全国平均を上回る種目が多く、特に「20mシャトルラン」は全国平均を大きく上回りました。
- ・小学校では、全国平均と比べると男女ともに、特に「反復横とび」「立ち幅とび」で低い傾向が見られました。
- ・中学校では、全国平均と比べると男女ともに、特に「長座体前屈」で低い傾向が見られました。

質問紙調査の結果

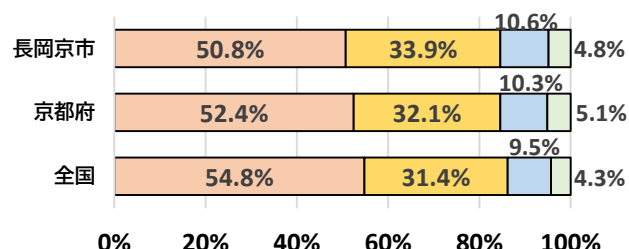
運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。

好き やや好き やや嫌い 嫌い

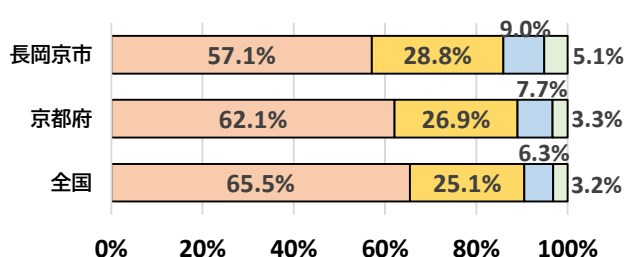
【小学校5年生男子】



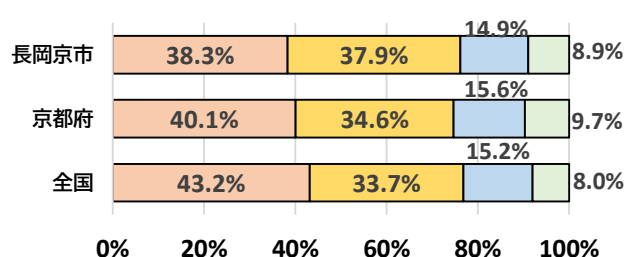
【小学校5年生女子】



【中学校2年生男子】



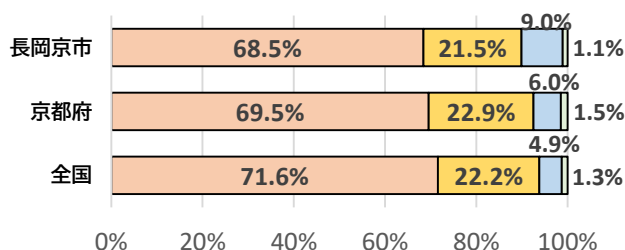
【中学校2年生女子】



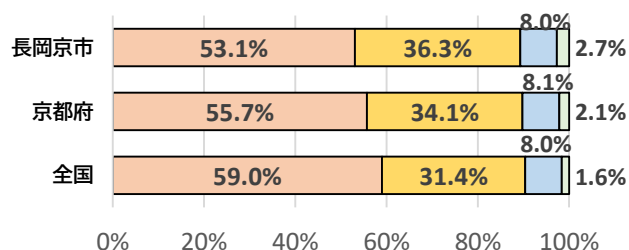
あなたにとって運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツは大切なものですか。

大切 やや大切 あまり大切ではない 大切ではない

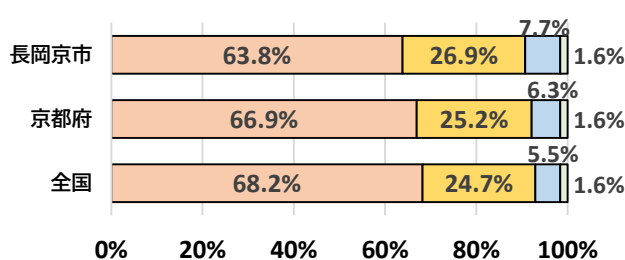
【小学校5年生男子】



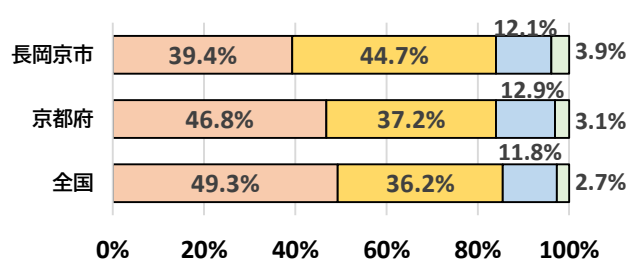
【小学校5年生女子】



【中学校2年生男子】



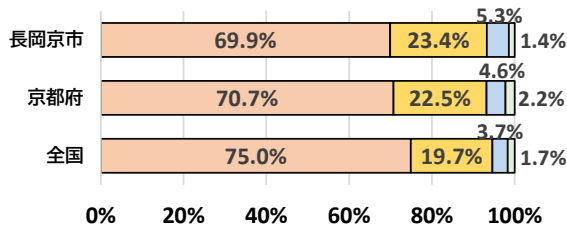
【中学校2年生女子】



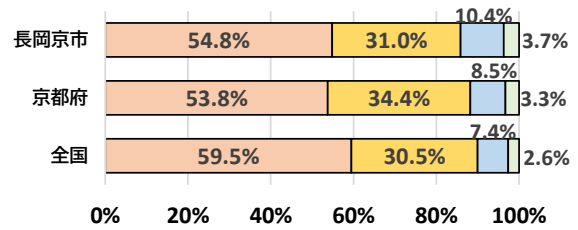
体育の授業は楽しいですか。

■ 楽しい
 ■ やや楽しい
 ■ あまり楽しくない
 ■ 楽しくない

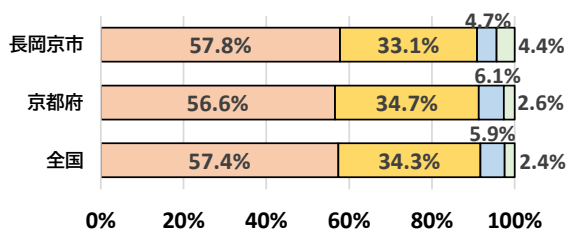
【小学校5年生男子】



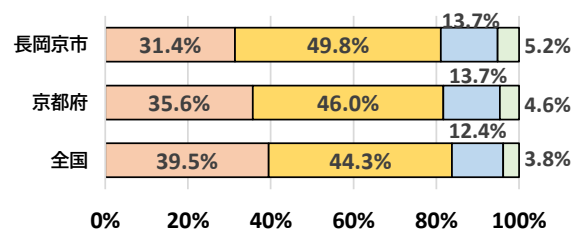
【小学校5年生女子】



【中学校2年生男子】



【中学校2年生女子】

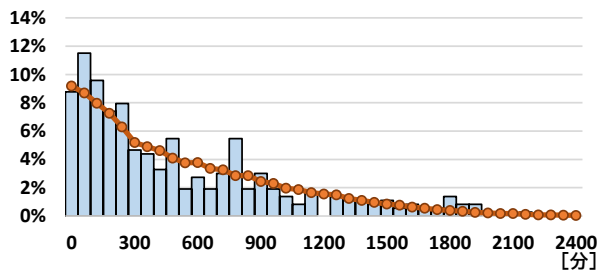


1週間の総運動時間（学校の体育の授業以外）

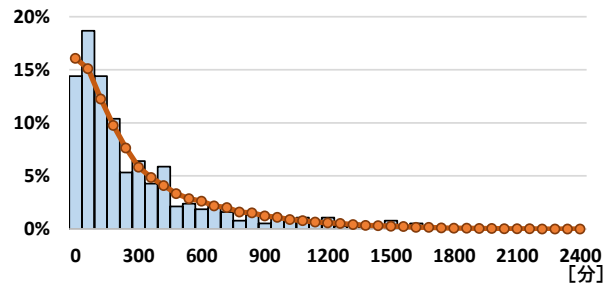
1週間の総運動時間の分布を、横軸を60分の階級、縦軸を割合で表しています。

■ 長岡京市
 ● 全国

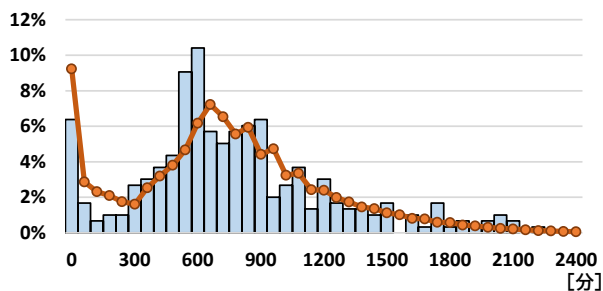
【小学校5年生男子】



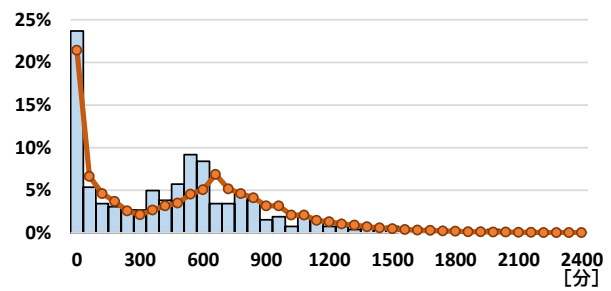
【小学校5年生女子】



【中学校2年生男子】



【中学校2年生女子】



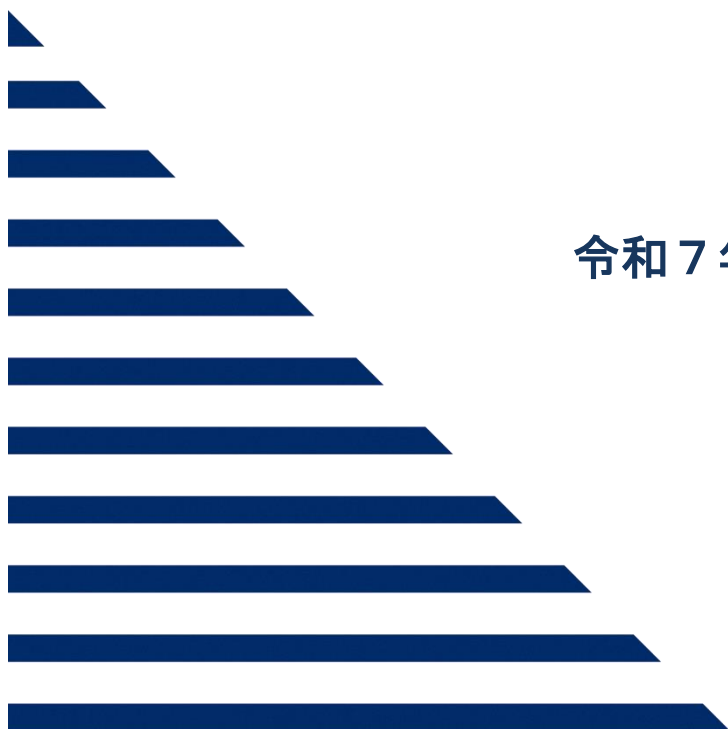
- 「運動が好き」「運動は大切だ」「体育の授業は楽しい」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国や府とほぼ同じ傾向でした。
- 「運動が好き」の質問に対して肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校5年生男子が91.9%、小学校5年生女子が84.7%、中学校2年生男子が85.9%、中学校2年生女子が76.2%でした。
- 「運動は大切」の質問に対して肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校5年生男子が90.0%、小学校5年生女子が89.4%、中学校2年生男子が90.7%、中学校2年生女子が84.1%でした。
- 「体育の授業は楽しい」の質問に対して肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校5年生男子が93.3%、小学校5年生女子が85.8%、中学校2年生男子が90.9%、中学校2年生女子が81.2%でした。
- 「学校の体育の授業を除いた1週間の総運動時間」は、小学校5年生男女で60～119分、中学校2年生男子で600～660分、中学校2年生女子で0～59分の割合が最も高くなりました。



第2期長岡京市スポーツ推進計画

(案)

令和7年3月



第2期長岡京市スポーツ推進計画

第2期長岡京市スポーツ推進計画の策定にあたって・・・・・・・・・・		1
1.	計画策定の趣旨・・・・・・・・・・	1
2.	スポーツの意義・・・・・・・・・・	2
3.	スポーツの定義・・・・・・・・・・	2
4.	スポーツにおけるSDGs(持続可能な開発目標)の位置づけ・・	3
5.	計画の位置づけ・・・・・・・・・・	3
6.	計画の期間・・・・・・・・・・	4
長岡京市におけるスポーツの現状と課題・・・・・・・・・・		5
1.	第1期計画の数値目標の達成状況・・・・・・・・・・	5
2.	本市の現状と課題・・・・・・・・・・	8
長岡京市の今後のスポーツ推進の方向性・・・・・・・・・・		11
1.	計画の基本方針・・・・・・・・・・	11
	「する」・・・・・・・・・・	12
	「みる」・・・・・・・・・・	15
	「ささえる」・・・・・・・・・・	16
課題解決に向けた取組み「6つの視点」・・・・・・・・・・		18
数値目標・・・・・・・・・・		19
計画の推進体制・・・・・・・・・・		19
1.	計画の推進体制・・・・・・・・・・	19
2.	計画の進行管理・・・・・・・・・・	19

参考資料

- ・「スポーツに関する市民意識調査報告書」【ダイジェスト版】・・・・・・・・21
- ・長岡京市でスポーツができる施設や主な公園マップ・・・・・・・・巻末

第2期長岡京市スポーツ推進計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

- 長岡京市では、平成17(2005)年に、「長岡京市スポーツ振興計画」を策定、さらに、平成27(2015)年には、「スポーツ基本法」第10条の規定に基づく地方公共団体が策定する「地方スポーツ推進計画」として、「長岡京市スポーツ推進計画(以下、第1期計画という。)」を策定《令和2(2020)年に中間改定》し、基本理念を「あんたもスポーツ心を！」として、市民の誰もが「スポーツ心」を持って、幸福で豊かな生活を営むことができる「生涯スポーツ社会」を目指し、地域スポーツの推進に取り組んできました。
- 国では、スポーツ基本法(平成23年法律第78号)に基づき、平成24年(2012年)3月に「スポーツ基本計画」を策定、以降5年ごとに見直しを行い、令和4(2022)年3月には「第3期スポーツ基本計画」を策定されました。京都府では、令和6(2024)年4月に「第2期京都府スポーツ推進計画」を策定、今後10年間で推進する必要な施策について方向性を示し、総合的かつ計画的にスポーツの推進に取り組まれています。
- この間、人口の減少、長寿社会の到来、少子高齢化の進行、様々な技術革新の急速な広がり、共生社会の実現に向けた動向、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復、物価高騰の影響、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした「スポーツ・レガシー」の継承・発展など、スポーツを取り巻く社会環境や市民のライフスタイル、価値感は大きく変化しています。
- 本市においても、スポーツの力を活かした地域活性化に向けて、子どもから高齢者、障がい者など、誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境づくりを進める必要があります。今回、スポーツを取り巻く環境の変化や、第1期計画の策定から10年が経過することを契機に、令和7(2025)年度を計画初年度とする令和16(2034)年度までの10年間にわたる、本市のスポーツ施策を総合的かつ計画的に推進するために、「第2期長岡京市スポーツ推進計画(以下、本計画という。)」を策定するものです。
- 策定に当たっては、国の「第3期スポーツ基本計画」及び京都府の「第2期京都府スポーツ推進計画」を参酌し、「長岡京市第4次総合計画」及び令和13(2031)年度策定予定の「長岡京市第5次総合計画」の個別計画として、本市のスポーツの推進に関する諸施策を踏まえ、今後10年間を見通した本市のスポーツの基本となる計画です。

- スポーツは、体を動かすという人間の欲求に応え、心身の健全な発達、健康や体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、生活習慣病の予防、介護予防など、人々が生涯にわたって心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものとなっています。また、青少年の健全な育成を促し、仲間や指導者との交流を通じて豊かな心や他人への思いやりを育むほか、フェアプレーの精神や克己心を養い、人格の形成にも大きな影響を与えます。スポーツにおけるトップチームやトップアスリートの活躍は、人々に夢や勇気、感動を与え、スポーツへの関心を高めます。さらに、スポーツは、人と人、地域と地域の交流を促し、地域の連帯感の醸成、共生社会や健康長寿社会の実現にも寄与するなど、健康で活力に満ちた、ウェルビーイングの向上に欠かせません。あわせて、体を動かすことはもとより、健康作りや体力作りの知識や技術を身に付けて生活することや、スポーツ観戦を楽しむこと、スポーツ活動をサポートすることなども、生活の質的向上やゆとりのある生活を実現する上で、大きな役割や効果をもたらします。

- スポーツ基本法において、スポーツは「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と定められています。また、国のスポーツ基本計画では、スポーツには、競技スポーツに加え、散歩やダンス・健康体操、ハイキング・サイクリング、野外活動やスポーツ・レクリエーション活動も含まれており、「文化としての身体活動」を意味する広い概念としています。

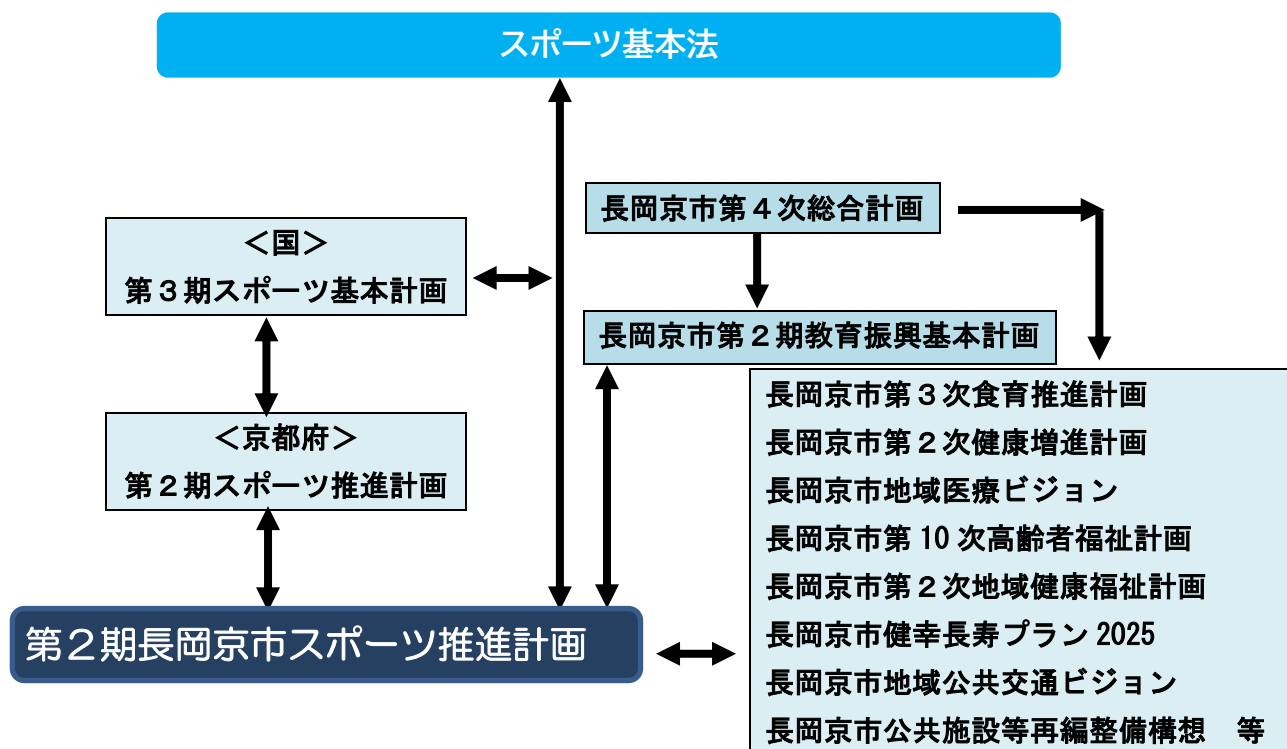
本計画でも、市民がスポーツをより身近なものとして感じることができ、気軽に楽しむことができるよう、スポーツの概念を幅広くとらえ、勝敗を争う競技スポーツから、地域交流が図られるレクリエーション活動、ウォーキングや登山、ラジオ体操や介護予防のための軽い運動、さらには日常生活の様々な場面で身体を動かす、自発的に楽しむ身体的活動、「スポーツ心」をもって行われる様々な活動をスポーツと定義します。

スポーツ心 とは…

「スポーツ」とは、運動競技や体を動かすことすべてを指しており、心身の健全な発達を図るためにされるものです。「スポーツ」ということばから湧き出るイメージから、「健康」「挑戦」「忍耐」「努力」「向上心」「達成感」「リフレッシュ」「継続」「スピリッツ」「楽しみ」「フェア」「仲間」「礼儀」「感動」「友情」などを総称して、『スポーツ心』と呼び、生活全体に波及することを期待しています。

- SDGs(Sustainable Development Goals)とは、平成27(2015)年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、令和12(2030)年を年限とする17の国際目標(ゴール)です。
- 発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものとされており、17の目標(ゴール)には、さらに169のターゲットと232の指標が決められています。
- 本市では、「長岡京市第4次総合計画」に基づき、各施策分野にSDGsの目指す17のゴールを関連づけることにより、各施策とSDGsを一体的に推進しています。それぞれのゴール・ターゲットは、相互に関連して持続的な発展を目指すものであり、スポーツについても、様々な分野でSDGsの達成に寄与する活動としており、関連性のある主な目標としては、「目標3 保健 すべての人に健康と福祉を」や「目標4 教育 質の高い教育をみんなに」等に寄与するとして、スポーツの価値のさらなる向上を目指すことが必要とされています。

- 本計画は、国の「スポーツ基本法」第10条に基づいた「その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画」と位置づけます。国の「第3期スポーツ基本計画」及び京都府の「第2期京都府スポーツ推進計画」等を踏まえ、本市におけるスポーツ推進の理念を守りつつ、今後のスポーツ推進の方向性を定めるものです。さらには、市政の指針である「長岡京市第4次総合計画」及び「長岡京市第5次総合計画(予定)」の個別計画として位置付けます。



●令和7(2025)年度から令和16(2034)年度までの10年間

※なお、5年後の令和12(2030)年度には、その時点での進捗状況や社会情勢の変化に応じて、必要な見直し(中間改定)を行うものとします。

(中間改定の期間は令和12(2030)年度から令和16(2034)年度の5年間となります)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
国	第3期スポーツ基本計画 (R4年度～R8年度)												
京都府			第2期京都府スポーツ推進計画 (R6年度～R15年度)										
長岡京市				第2期長岡京市スポーツ推進計画 (R7年度～R16年度)									
市第4次 総合計画	長岡京市第4次総合計画第2期基本計画(R3年度～R7年度) 第3期基本計画(R8年度～R12年度)												



長岡京市におけるスポーツの現状と課題

1 第1期計画の数値目標の達成状況

No.	項目	計画当初の現状値	目標値(a)	R5 達成値(b)	達成率% (b/a)
1	市民スポーツ実施率の向上	42.9%	60.0%	52.1%	86.8%
2	総合型クラブの設立	5 校区	10 校区	8 校区	80.0%
3	子どもの体力向上	項目の半数で京都府平均を上回る	同左	上回った項目 18/32	達成 112.5%
4	講座・研修会の充実	8 事業	8 事業	8 事業	達成 100.0%
5	スポーツ施設の機能充実・整備	施設の整備・充実	同左	・西山公園体育館のLED化 ・スポーツセンターの耐震化 ・防災・スポーツ施設の建設検討 ・学校体育館及び武道場の空調設備整備設計 など	達成
6	京都府民総合体育大会で常時入賞	常時入賞	常時入賞	常時入賞	達成

(1) 市民スポーツの実施率の向上

令和5(2023)年度に実施した「市民意識調査(※)」の結果によると、「週1回以上スポーツを行った人」の割合は 52.1%と、第1次計画策定時(平成25(2013)年度実施調査)から9.2%増加したものの、目標値の60.0%には届きませんでした。

目標は達成できなかったものの週2回以上行った人の割合は 35.6%と5.8%の増、運動やスポーツをしなかった人の割合は 28.1%と4.3%の減となっていることから、スポーツの実施率は着実に向上しています。

(※) 調査対象は市内在住の18歳以上の方

◇スポーツの実施頻度	H25	H30	R5
ほぼ毎日	7.0%	6.3%	11.2%
週に4～5回	7.7%	6.6%	8.6%
週に2～3回	15.1%	18.0%	15.8%
週に1回	13.1%	13.0%	16.5%
月に1回以上	13.6%	12.4%	12.7%
年に1回以上	8.2%	8.0%	6.6%
まったくしていない	32.4%	34.7%	28.1%
無回答	2.9%	0.9%	0.5%
調査数(人)	977	1,070	983
「週1回以上スポーツを行った人」の割合	42.9%	43.9%	52.1%

そこで、年齢ごとに実施率を見ると、週に1回以上スポーツする人の割合は10歳代(18歳以上)が76.4%、70歳代以上が66.4%と高く、逆に、40歳代が44.4%、30歳代が34.2%と低くなっています。

一方、スポーツを行った人に対して、スポーツを行った平均時間を尋ねたところ、30分未満が18.4%と第1期計画策定時に比べて5.7%増加するなど、全体的に実施時間は短くなっています。

余暇時間が少ない人ほどスポーツを行う頻度・実施時間が減少する傾向や、スポーツに関心がある人ほど実施頻度が高い傾向等を踏まえると、実施率をさらに高めるためには、市民にスポーツへの関心を高めてもらうための取組や、ウォーキング(散歩を含む)やジョギングなど手軽に取り組めるスポーツに取り組んでいただけるような啓発や機会、施設の充実等が必要です。

◇週1回以上スポーツする人の年齢別割合

10歳代(18歳以上)	76.4%
20歳代	49.3%
30歳代	34.2%
40歳代	44.4%
50歳代	50.8%
60歳代	50.6%
70歳以上	66.4%

◇スポーツ1回あたりの実施時間

	H25	H30	R5
30分未満	12.7%	12.6%	18.4%
30分以上1時間未満	26.6%	30.3%	30.6%
1時間以上2時間未満	37.7%	37.4%	34.2%
2時間以上	21.0%	19.0%	15.2%

(2) 総合型クラブの設立

総合型地域スポーツクラブは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。本市においては全小学校区での設立を目指して、関係者・地域の皆様とともに取組を進めてきました。目標値の全10校区は達成できませんでしたが、第1期計画当初の5校区から3校区増えて8校区において「総合型地域スポーツクラブ」が設立しています。

一方、市民意識調査で「総合型地域スポーツクラブ」の認知度について調べたところ、「知らない」が68.5%と多くを占めています。「名前だけは知っている」が23.1%、「内容まで知っている」が6.8%と少ない状況であり、市民の認知度を高める取組が求められています。

◇現在設立されている長岡京市内の総合型地域スポーツクラブ (順不同)

総合型地域スポーツクラブ名	校 区	総合型地域スポーツクラブ名	校 区
総合型長七みんなのスポーツクラブ	長岡第七小	グッド楽(ラック)クラブ	長法寺小
フォー遊クラブ	長岡第四小	倶楽部・てん	長岡第十小
ふるさとスポーツクラブ	長岡第九小	さんSUNスポレククラブ	長岡第三小
長五校区総合型地域スポーツクラブ	長岡第五小	8スルくらぶ	長岡第八小

(3) 子どもの体力向上

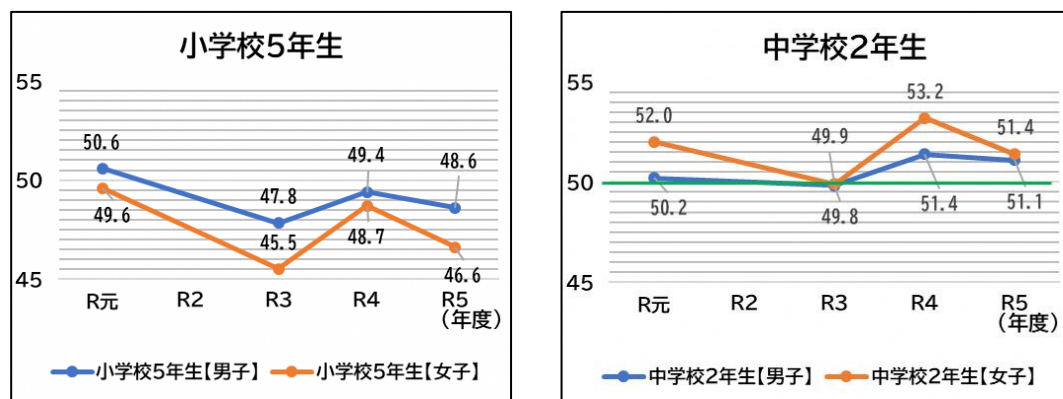
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、小学校5年生男子・女子、中学校2年生男子・女子の実技テスト8項目(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ソフトボール(中学生はハンドボール)投げ)について、長岡京市と京都府の平均値を比較すると、トータル32項目中18項目と半数以上の項目で長岡京市が上回り、目標を達成しました。

ところで、体力合計点については、小学5年生は男女とも令和3(2021)年度から令和5(2023)年度にかけて全国及び京都府の平均を下回り、中学2年生は男女とも、令和3(2021)年度では全国及び京都府の平均を若干下回っていましたが、令和4(2022)年度と令和5(2023)年度では、全国及び京都府の平均を上回っています。コロナ禍以前は小中学校とも全国及び京都府と同様の分布となっていたことが影響しているようです。コロナ禍で特に若年層のスポーツの機会が奪われたことが、全国や京都府以上に影響しているものと考えており、今後は若年層のスポーツの機会を充実していく必要があると考えています。

◇令和5年度全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査結果から

分類 項目	小学校5年生				中学校2年生			
	男子		女子		男子		女子	
	市平均	府平均	市平均	府平均	市平均	府平均	市平均	府平均
握力(kg)	15.42	15.63	15.07	15.35	27.71	28.08	23.01	22.83
上体起こし(回)	19.19	19.04	16.93	17.84	26.61	25.82	22.59	21.79
長座体前屈(cm)	32.09	31.07	36.92	35.58	43.34	42.35	44.48	44.66
反復横とび(点)	38.46	38.56	36.02	36.95	52.69	51.61	46.37	45.89
20m シャトルラン(回)	45.73	47.93	32.59	37.13	84.55	81.10	55.63	53.45
50m 走(秒)	9.20	9.34	9.59	9.61	7.80	7.90	8.61	8.83
立ち幅とび(cm)	148.05	150.07	135.91	141.42	200.74	196.19	168.31	166.33
ソフトボール投げ(m)	20.17	20.75	12.21	13.29				
ハンドボール投げ(m)					19.67	19.63	12.31	12.43

◇体力合計点の経年変化(全国平均値を50としたときの相対的な位置の変化)



(4) 講座・研修会の充実

スポーツに関する指導者向けの研修会など、8講座が実施され目標を達成しました。

◇講座・研修会 〈令和5年度実績〉

- ⇒ スポーツ少年団指導者研修 1回
- ⇒ スポーツ団体連合会役員指導者研修 1回
- ⇒ スポーツボランティア講座 2講座
- ⇒ アクティブチャイルドプログラム普及促進講座 1回
- ⇒ スポーツボランティア実践機会の提供 1回
- ⇒ 乙訓地域スポーツ指導者研修会 2講座

(5) スポーツ施設の機能充実・整備

西山公園体育館及びスポーツセンター、また学校開放事業としても活用される各学校の施設(体育館・武道場・運動場・夜間照明など)について、修繕等施設整備を適宜行いました。とくに、西山公園体育館のLED化、スポーツセンターの耐震化等の大規模改修工事等にも取り組みました。また、今後に向けて、防災・スポーツ施設の建設及びスポーツセンターの再整備の検討、学校施設(体育館、武道場)の空調設備の設置の推進など、スポーツ施設・設備の環境整備も行っています。

(6) 京都府民総合体育大会で常時入賞

京都府民総合体育大会については、平成26(2014)年度から令和5(2023)年度まで10年間のうち、8大会(コロナ禍で2大会は順位を決めず)の全ての大会において、総合結果で入賞(8位以上)しており、目標を達成しました。

※なお、直近の令和5(2023)年度は、8競技において入賞し、総合6位に入賞しています。

☆さらに… この間、夏季冬季あわせて、長岡京市にゆかりのあるオリンピック選手が4名誕生するなど、多くのトップアスリートを輩出しています。

2

本市の現状と課題

(1) スポーツをする機会・場所を増やす

スポーツは、身体的・精神的な欲求にこたえとともに、人生を豊かで充実したものにする重要な役割を果たします。コロナ禍を経てこうしたスポーツの意義・重要性が再認識され、スポーツへの関心や意欲が高まったことが市民のスポーツの実施率を高めたものと考えられます。

市民意識調査の結果からも、スポーツを行う目的は「健康でいたいから」が最も多くの割合を占めるなど、健康意識の高まりも背景にあると考えられます。今後も高齢化が進む中、健康寿命の延伸に向けてスポーツに取り組む市民を増やす必要があります。

一方で、働き盛りの世代や子育て世代の実施率は低いという課題があります。余暇時間が少ないほど実施率が低いという状況もあります。今後は余暇時間が少ない人も含め、すべての世代が、気軽にスポーツに親しむことができる機会や場所の充実が求められます。

特に、幼少期にスポーツをする習慣をつけること、体力の向上を図ることは、生涯にわたって健康な生

活を送る上で大切なことです。そのためにも、運動や遊びの機会・場所の充実が求められます。

現在、子どもたちのスポーツ少年団への加入が減少傾向にありますが、子どもたちのスポーツの機会をより拡充する支援を行う必要があります。また、中学生のスポーツの機会を確保するために、地域の関係団体と連携して受け皿を作る必要もあります。

また、小中学校においては、今後も授業の工夫改善等を行いながら、児童生徒がスポーツを楽しむ生涯にわたって続けていくための関心や意欲を育て高めていくことが求められます。

また、障がいの有無にかかわらず、市民誰もがスポーツに参加できる環境づくりは重要です。こうした観点から様々なイベント・大会のあり方を再考し、そうした機会を創出するとともに、インクルーシブ施設の充実も必要です。

ところで、スポーツを通して人とつながることは、生活を豊かなものにするうえで大切なことです。しかしながら、一人でスポーツに取り組んでいる人の割合が高いことから、人とつながる機会を増やしていくことも求められています。

◇市民意識調査の結果から

◇スポーツを行う目的

健康でいたいから	58.5%
運動不足解消	52.0%
楽しみ・気晴らし	50.0%
体力づくり	43.0%
将来、介護を受けないため	13.8%

◇スポーツを行うための動機（改善点）

身近で行きやすい場所に施設・場所があること	69.4%
利用料金や参加料金が安いこと	42.9%
自由に出来る時間があること（休暇が増える、仕事や育児の負担が減る）	31.9%

(2) スポーツをみる・ふれる機会を増やす

今後さらに市民のスポーツへの関心・意欲を高め、実施率の向上を図るためには、市民に「このスポーツは楽しそう。自分もやってみようかな。」などと思ってもらう機会、つまりスポーツをみる機会、ふれる機会を増やすことが必要です。

市民意識調査では約8割の方がテレビ、インターネット、ラジオ等で 観戦・視聴されているのに対して、スポーツを直接観戦した方は 26.2%にとどまっています。本市では、若葉カップ全国小学生バドミントン大会の開催をはじめ、本市発祥のスポーツであるファミリーバドミントンの全国大会も開催しています。また、「本市ゆかりのアスリートの出場状況や成績の情報に触れる」、「トップアスリートに直接交流する」といった機会を設けるほか、サッカーの京都サンガF.C.、バスケットボールの京都ハンナリーズ、バドミントンのプレントイグローバルリンクスとのホームタウン協定等に基づく長岡京市民デーの試合観戦等も行ってきました。しかし、そうした情報が市民に十分に伝わっていないことも原因の一つとして考えられます。

一方、市民の長岡京市内のスポーツに関する行事や教室等の情報源は「長岡京市広報紙（長岡京ライフ）」が 52.2%と最も多くなっています。年齢別に見ると、広報紙は60歳代以上、ホームページ等は20~50歳代が多く、20~30歳代はSNSからの情報入手も多くなっています。なお、関心のあるスポーツの情報については、「健康・体力づくり情報」が 31.0%と最も多く、次いで「スポーツ教室の情報」「スポーツ観戦・大会等の情報」などとなっています。「スポーツ施設の情報」や「新しいスポーツ、気軽にできるスポーツ等の情報」も2割前後となっています。スポーツを「する」「みる」ための情報へのニーズが高くなっていると考えられます。

以上のことから、今後は、トップアスリートと交流する機会やスポーツ観戦の機会などスポーツをみる

機会、ふれる機会の充実に取り組むとともに、情報発信の方法や回数など工夫していく必要があります。

(3) スポーツを支える仲間を増やす

スポーツへの参加や観戦にはそれを支える人たちの助力が欠かせません。しかし、従来から大会運営や指導の中心になってきた人々の高齢化、それを引き継ぐ人材の不足という課題が生じており、スポーツの指導者やボランティアの発掘・養成は喫緊の課題です。

しかし、市民意識調査によると、直接的指導やスポーツ活動等の運営や世話、スポーツイベントの運営や世話について、若い世代は「参加経験がある人」、「やってみたい(やってもよい)人」の割合が高くなっています。このことは若い世代が支える側への思いを持ちながらも支える側に立てていない状況にあるとも言えます。若い世代に支える仲間となってもらうためには、情報提供により参加を呼びかけ、支える側に立ってもらう機会をつくる必要があります。その際、長年支える側として活動してきた人々と若い世代の人々が十分に意見交換をしながら、若い世代のアイデアを取り入れたり、時には、若い世代に任せすることも必要であり、そうした取組みを通して、支える仲間を増やすことが求められています。

◇市民意識調査の結果から（スポーツの指導、スポーツ活動・スポーツイベントの運営や世話の状況）

◇技術等の直接的指導

	参加経験あり	やってみたい
10 歳代	11.8%	35.3%
20 歳代	10.8%	12.3%
30 歳代	8.1%	16.3%
40 歳代	6.8%	9.9%
50 歳代	3.9%	7.9%
60 歳代	9.0%	6.0%
70 歳代	6.7%	4.0%

◇活動等の運営や世話

	参加経験あり	やってみたい
10 歳代	14.7%	41.2%
20 歳代	9.2%	20.0%
30 歳代	6.5%	20.3%
40 歳代	7.4%	14.8%
50 歳代	9.4%	14.8%
60 歳代	14.5%	9.0%
70 歳代	10.3%	4.5%

◇イベントの運営や世話

	参加経験あり	やってみたい
10 歳代	14.7%	52.9%
20 歳代	9.2%	29.2%
30 歳代	2.4%	24.4%
40 歳代	4.9%	21.0%
50 歳代	8.9%	25.1%
60 歳代	11.4%	14.5%
70 歳代	9.9%	8.1%



長岡京市の今後のスポーツ推進の方向性

【基本理念】

「みんなもスポーツ心を！」

スポーツをする人、みる人、ささえる人

みんなでつなげる 長岡京

～ 一人ひとりのウェルビーイングと共生社会の実現をめざして ～

●基本理念の考え方

少子高齢化をはじめ、様々な社会環境の変化や、ライフスタイルや価値観が急激に変化する社会において、市民の誰もが健康を実感しながら生き生きとした暮らしを送ることのできる社会の構築は、極めて重要な課題です。

スポーツには、体力の維持、心身の健康の保持増進はもちろん、青少年の健全育成や地域社会の再生、社会・経済の活力の創造等、市民生活において多面にわたる効果が期待されています。

今後とも、市民誰もが、各々の関心や適性等に応じて、生涯にわたって自発的かつ日常的にスポーツに親しみ、支える活動に参画することのできる機会を確保することを目指します。

そのため、昭和63(1988)年の本市の「スポーツ振興の理念」を継続させ、一層の発展を期すこととし、市民の誰もが「スポーツ心」を持って、「する」「みる」「ささえる」の3つの視点からとらえ、「みんなでつなげる」という大きな視点で、「ウェルビーイング」の向上と「共生社会」の実現をめざすための基本理念です。

1 計画の基本方針

本計画では、スポーツの基本方針を「する」「みる」「ささえる」の3つの視点からとらえ、スポーツで人や地域を「つなげる」ことを目指して、具体的施策を進めていきます。

する

- ▶誰もが、スポーツを楽しむことができる
- ▶スポーツや運動を通じて、健康づくりや体力増進、競技力の向上等をはかる
- ▶スポーツを楽しむ環境が整備されている
- ▶スポーツを通じて様々な出会いがある

性別、年齢、障がいの有無にかかわらず、誰もが、ライフスタイルやライフステージに合わせた、スポーツに親しめる機会を提供し、ウェルビーイング(健康や幸福感)の向上や共生社会の実現につなげます。また、生活の中での「身体活動」もスポーツと捉え、健康維持、体力増進、介護予防から競技力の向上まで、様々なスポーツの機会の提供に取り組めます。あわせて、人と人、地域と地域のつながりを創出し、交流を図り、地域コミュニティの活性化を図ります。

●スポーツ施設の整備

既存のスポーツ施設の改修や新たなスポーツ施設の建設等を実施し、スポーツを行うために必要な場所や設備の整備に取り組めます。

- *スポーツ施設の改修、機能向上、備品の更新
- *防災・スポーツ施設の建設・整備の検討
- *スポーツセンターの再整備
- *施設までのアクセスの利便性向上
- *小中学校の体育館空調設備整備
- *公園や広場など子どもの遊び場の環境整備
- *アーバンスポーツ等の新たなスポーツの施設整備の検討

●スポーツイベントの開催

スポーツを「する」「継続して行う」きっかけづくりとなるような、全市的なイベントの開催や、市民にとって身近で参加しやすい地域単位でのスポーツイベントの充実に継続して取り組み、市民のスポーツ実施率の向上、心身の健康増進を図ります。

- *市民大運動会、ガラシャロードレース(市民マラソン)の開催
- *市民スポーツフェスティバル、総合型クラブフェスティバルの実施
- *地域スポーツ振興事業の実施
- *各スポーツ種目協会への支援
- *様々な人が参加できるスポーツイベントの検討
- *他分野(文化、観光、文化財等)とのコラボによるスポーツイベントの実施
- *ニュースポーツ等の推進(ファミリーバドミントン、ミニバレーボール、ボッチャなど)
- *新たな全市的なスポーツイベントの検討
- *健康づくりを意識したスポーツ(健康マイレージ事業)の検討

●子どものスポーツイベントの充実

子どもの体力・運動能力向上を目指すためにも、幼児期からの運動習慣の定着や、保護者への啓発活動、運動や遊び場所の整備に取り組めます。また、スポーツ少年団や学校運動部活動を支援することで、子どものスポーツ人口拡大に取り組めます。

- *親子で参加できるスポーツ教室の開催
- *スポーツ少年団への支援
- *部活動地域連携、地域展開の推進
- *新体力テストを活用した学校体育における取組みの推進
- *アクティブチャイルドプログラム(ACP)のさらなる推進
- *公園や広場など子どもの遊び場の環境整備
- *学校プール指導の民間活用
- *ホームタウンチーム等との交流等の実施

●ニーズに合わせたスポーツイベントの充実

子ども、成人、高齢者、障がい者など、スポーツをする人のニーズに合わせたイベントや教室の実施に取り組め、心身の健康の増進を図ります。

- *各世代や障がいの有無など各々のニーズに合わせたスポーツイベントの実施

●誰もが共に楽しむことができるスポーツ機会の創出

年齢、性別、障がいの有無等に関係なく、一緒にスポーツを楽しめる機会を提供し、共生社会の実現に取り組めます。

- *既存スポーツイベントにおいて、年齢、性別、障がいの有無などに関係なく、誰もが一緒に参加でき、楽しめるインクルーシブ種目の検討
- *障がい者、高齢者らが参加しやすい環境の整備



●競技力向上のための指導体制の充実

学校部活動や競技団体の活動に、地域のスポーツ指導者を活用できる体制作りに取り組み、競技力の向上を図ります。

- * 学校部活動や競技団体への指導者派遣体制の構築
- * 各種目の指導者間交流の実施

●スポーツの情報発信、情報活用

誰もが、体を動かすための場所やスポーツ教室の開催情報など、様々な関連情報を発信し、体を動かすきっかけがうまれるように、ホームページやSNSなど多様なツールを活用し、スポーツに関する情報発信の強化に取り組みます。

- * SNS、DXなどデジタル媒体の有効活用
- * 長岡京市ゆかりのチーム、アスリートの活躍情報の場（広報・表敬訪問など）の提供
- * 障がい者スポーツ、女性スポーツの活動や、高齢者の健康増進活動の啓発
- * スポーツ教室や、全市的なイベントの周知

●国際交流・他自治体との交流

外国や姉妹都市静岡県伊豆の国市等とのスポーツ交流の実施、また、国際大会を観戦することによりスポーツを通して世界とつながる機会の提供に取り組みます。

- * 長岡京市と外国とのスポーツ交流の実施
- * 国際大会の観戦機会の検討
- * 姉妹都市静岡県伊豆の国市をはじめ他自治体との交流の実施



みる

- ▶応援や観戦を通じてスポーツをより身近に感じることができる
- ▶トップレベルで活躍する姿を通じてスポーツに対する興味関心が高まる

スポーツをより身近なものに感じてもらうため、トップアスリートとの交流や、現地で大会などを観戦することにより、スポーツに直接にふれていただけるよう取り組みます。

●トップアスリートと交流する機会の確保

ホームタウンパートナーシップを結んだスポーツチーム等や京都府の事業などを活用してトップレベルで活躍するアスリートとの交流等でスポーツに対する興味関心を高めます。

- *ホームタウンパートナーシップを結んでいるスポーツチーム等との交流や観戦応援の実施
- *試合観戦の情報発信・トップレベルの試合視聴の情報発信
- *SNS等を活用した応援の共有
- *学校教育におけるトップアスリートとの交流機会の確保
- *トップアスリートを招いた講演会などの検討

●スポーツ観戦機会の充実(ホームタウン協定チームとの連携など)

パブリックビューイングや試合観戦など、多くの人々が一体となってスポーツに「みる」「ふれる」機会を設けることにより、スポーツを通した一体感、感動、興奮にふれ、スポーツに対する興味関心を高めます。

- *ホームタウンパートナーシップを結んでいるスポーツチーム等との連携事業
- *プロスポーツと連携した観戦機会の確保
- *パブリックビューイングの実施(本市ゆかりのアスリートやチームなど)

●試合の情報発信(本市ゆかりのチームやアスリートなど)

本市ゆかりのチームやアスリートの試合を様々な媒体で発信し応援することで、一体感、感動、興奮にふれるとともに、ふるさと意識の醸成に努めます。

- *SNS等を活用した応援の共有
- *プロスポーツと連携した観戦機会の情報提供
- *トップレベルの試合視聴の情報発信

ささえる

- ▶指導者やボランティアなどスポーツ活動を支える担い手が増える
- ▶スポーツを楽しむ環境が整備されている
- ▶人との出会いや交流が、豊かな人間形成、地域の強い絆の形成へと発展する

スポーツを推進するためには、活動を支える担い手の力は必要不可欠です。団体役員、イベントスタッフ、指導者、ボランティア等の発掘、確保、支援等に取り組み、スポーツに対する多様な関わり方の機会を提供することで、スポーツイベントやスポーツ関連団体の活性化や持続可能な活動につなげます。

●担い手(ボランティア・指導者など)の参画機運の醸成

担い手(スポーツボランティアや指導者等)の参画機運の醸成に取り組み、スポーツに対する多様な関わりかたの機会を提供します。

- *スポーツボランティア等の登用(若葉カップ、ガラシャロードレースなど)
- *スポーツボランティア等が活躍できる機会の検討
- *担い手(スポーツボランティア、指導者など)を幅広く募る方策の検討

●研修会や講座の充実

スポーツの指導者や、子どもがスポーツをしている保護者などに向けて、ささえるスポーツに必要な知識を得るための研修会や講座を実施します。

- *指導者向け研修会の開催
- *スポーツ推進委員による研修会の講座の実施
- *スポーツに関わる様々な講座等の実施

●スポーツ賞の実施

スポーツ分野において、顕著な成績を収めた個人・団体や、長年地域スポーツの推進・充実に貢献いただいた個人・団体に対して、スポーツ賞を授与します。

- *顕著な成績を収めた個人・団体に対して授与されるスポーツ賞の実施
- *地域スポーツの推進・充実に長年貢献いただいた個人・団体を表彰
- *大会等で活躍、貢献した個人・団体の周知

●民間企業との連携

民間企業と行政とが協力、連携し、様々な手法で市民スポーツの振興やスポーツを通じた地域振興などに取り組めます。

＊若葉カップなどのスポーツ大会への支援

＊スポーツチームとのホームタウン協定等のもと学校や地域振興に貢献

●総合型地域スポーツクラブの支援、協働、連携

地域スポーツ振興の拠点となる、総合型地域スポーツクラブを推進すべく、総合型地域スポーツクラブの活動、設立に対しての支援に取り組めます。また、関係団体と協働、連携してスポーツのイベント等の実施に取り組むことにより、活動の充実を図ります。

＊総合型地域スポーツクラブの創設や活動への支援

＊総合型地域スポーツクラブの活性化に向けた情報交換会の実施

＊関係団体との協働、連携

●学校と地域団体の連携の推進

市内にある小学校、中学校、高等学校の連携強化の取組みや学校部活動以外での地域におけるスポーツ活動の機会確保に取り組めます。

＊学校部活動地域連携・地域展開の試行及び本格導入に向けた検討

＊学校間や学校と地域の連携方法の検討

●スポーツ組織の連携強化

行政やスポーツ協会、校区の総合型地域スポーツクラブや社会体育振興会連合会をはじめとするスポーツに関わる組織の連携強化につとめ、長岡京市のスポーツの推進に取り組めます。

＊行政やスポーツ推進委員、スポーツ協会や各種スポーツ団体等が交流する機会の確保

＊複数の組織が連携して行うスポーツイベントの検討



課題解決に向けた取組み「6つの視点」

「性別や年齢、障がいの有無にかかわらず誰もがスポーツに関わりやすい取組みが求められる」「小学生の体力向上に向けて更なる取組みが必要」「スポーツをささえる人たちの負担軽減が望まれる」など、様々な課題を解決するにあたって、各施策の企画、実行の際、以下に挙げる「6つの視点」を取り入れることを各方面に推奨し、それぞれの取組みの具体例や成果を随時共有、発信していき、課題解決につなげていきます。

(1)障がい者スポーツの普及と機会の提供

パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」など、障がい者をはじめ、あらゆる方が参加できる種目の採用や実施方法の検討を奨励します。身体、視覚、聴覚などにハンディがある方が参加できるよう、また、ハンディがない方も一緒に参加できる機会が提供できることを目指します。

(2)幼児の運動体験の機会の充実

各種スポーツイベントやスポーツ団体の取組みに幼児を含む親子が参加できる取組みを奨励します。就学前の段階から運動できる機会を増やし、子どもたちのさらなる体力向上を目指します。

(3)準備・お手伝い参加の奨励

従来、イベント開催にあたっては「担い手」が準備し、「参加者」が参加するという形が一般的でした。準備作業の一部を「種目化」するなどの取組みを通じて、担い手の負担を軽減させるとともに、準備やお手伝いの段階から参加することで、一体感や参加者の満足感をより高めることを目指します。また、スポーツ関係以外の団体とも連携し、活動の担い手として互いにサポートできる体制づくりを目指します。

(4)イベント内容の見直しと新たな層の参加促進

従来行ってきたイベントの設定(時期、対象、場所)等を見直すことや、種目の取捨選択、他のイベントとのコラボなどを奨励し、負担軽減や課題解決、新たな層の参加促進などを目指します。

(5)デジタル化の推進

紙による伝達や募集、応募に代わり、ホームページやメール、LINEをはじめとするSNSを活用した手法を奨励します。広報や周知を強化するとともに、関係者同士の連絡や会議などにも活用し効率的かつ効果的な運営を目指します。

(6)情報の発信・共有の奨励

従来、個々の団体がそれぞれで取り組んできたことについては、一部の関係者だけがその内容を共有するにとどまっていました。今後は、取組みや工夫している点、成果等を発信し広く共有することを奨励し、個々の課題解決の一助となることを目指します。

数 値 目 標

本市の現状、課題を踏まえ、前述までに紹介した施策を実施することで、下記の数値目標の達成を目指します。

No.	項目	現状値(R5)	最終目標値(R16)
1	市民スポーツ 実施率の向上	52.1%	70.0%
2	総合型クラブの設立	8 校区	10 校区
3	子どもの体力向上	小・中学校の新体力テストに て京都府平均を上回った項目 18/32(小・中合計)	小・中学校各々にて 新体力テストの項目の半数で 京都府平均を上回る
4	講座・研修会の充実	8 事業	8 事業
5	スポーツ施設の機能 充実・整備	・西山公園体育館のLED化 ・スポーツセンターの耐震化 ・防災・スポーツ施設の建設検討 ・学校体育館及び武道場の空調 設備整備設計 など	・防災・スポーツ施設の建設 ・スポーツセンターの再整備 ・学校体育館及び武道場の空調 設備整備 ・遊び場の整備・充実 など
6	京都府民総合体育 大会で常時入賞	常時入賞	常時入賞

計画の推進体制

1 計画の推進体制

本計画に掲げる施策を効率的・効果的に推進していくために、市やスポーツ関連団体等が、基本理念や基本方針等を共有した中で、それぞれが役割を果たすことが大切です。また、各々の活動を認め合いながら、組織同士の連携を強化し、各施策の具体的な事業や課題解決等を協働で推進します。

2 計画の進捗管理

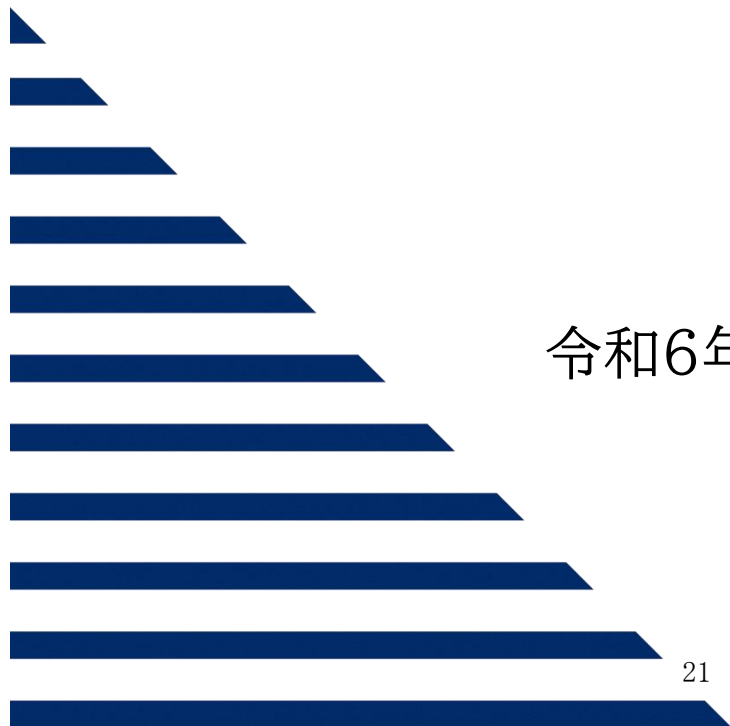
本計画に掲げる基本目標の実現にあたっては、庁内関係部署や関係機関・団体等が協働・連携・協力しながら施策を推進します。また「長岡京市第4次総合計画」等とも整合性を保ちながら、長岡京市スポーツ推進審議会において、進捗報告・意見聴取し、本計画の点検・評価を審議し、より効率的・効果的に実施できるように取り組みます。

なお、本計画が効率的・効果的に実施されるよう、PDCAサイクルの手法を参考に取り組みます。



スポーツに関する市民意識調査 報告書

【ダイジェスト版】



令和6年1月

調 査 概 要

1. 調査の目的

本市では、平成 27 年 4 月、「長岡京市スポーツ推進計画」を定め、今後の 10 年間を通じたスポーツ振興の基本方針を明らかにし、『あんたもスポーツ心を！』の基本理念をもとに、誰もが「スポーツ心」を持って幸福で豊かな生活を営むことができるよう、生涯スポーツ社会の振興に取り組んできました。本調査は、この計画の見直しに当たり、市民のスポーツに関する活動やその実態、長岡京市で取り組んできたスポーツ振興施策の満足度などについて調査し、これまでの調査結果（平成 25 年度及び平成 30 年度実施）と比較することで、今後の長岡京市におけるスポーツ振興の在り方について見直し、新たな「長岡京市スポーツ推進計画」を策定するための基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査項目

1. 基本属性 2. スポーツ活動の状況について 3. スポーツ施設について
4. クラブや同好会、サークル、教室について
5. 市内のスポーツ行事及び団体への参加や情報発信について
6. 障がい者スポーツの振興について 7. 子どもの「運動・遊び」について
8. 部活動の地域移行について 9. e スポーツについて
10. 今後のスポーツ振興のために必要な施策について

3. 調査設計及び回収結果

調査対象	長岡京市在住の 18 歳以上の方 2,100 人（無作為抽出）※
調査方法	郵送配付・郵送回収又は WEB 回答
調査期間	令和 5 年 10 月 20 日（金）～11 月 15 日（水）
有効回答数	983 件（うち WEB 回答数 298 件）
有効回答率	46.8%（983/2,100 件）

※平成 25 年度及び平成 30 年度の調査対象は長岡京市在住の 20 歳以上の方 2,100 人

4. 報告書の見方

- ・図中の N（Number of case）は設問に対する回答者数のことです。
- ・数表の集計区分ごとの集計母数は単数回答では「合計」、複数回答では「有効回答数」となっています。
- ・回答比率（%）は回答者数を 100%として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しました。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがあります。また、一人の対象者に複数の回答を求める設問では、回答比率（%）の計は 100.0%を超えます。
- ・「過去調査との比較」では、平成 25 年度（現行計画策定前）及び平成 30 年度（中間改定前）に実施した「スポーツに関する市民意識調査」の結果と比較を行っています。

(1) するスポーツ

①市民の運動・スポーツの実施率

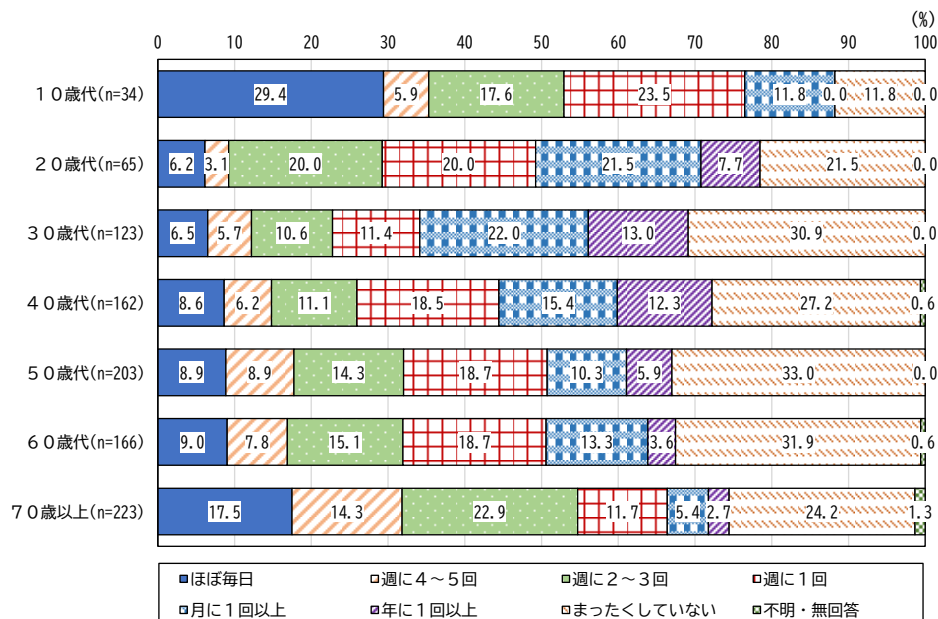
◆市民の運動・スポーツの実施率

- ▶「週1回以上運動・スポーツをする人」の割合は、52.1%（H30：43.9%）、週2回から3回以上では、35.6%（H30：30.9%）でした。一方、運動やスポーツをしなかった人の割合は28.1%（H30：34.7%）でした。
- ▶年齢別では、週に1回以上運動・スポーツする人の割合は、30代が34.2%と最も低く、40代も44.4%と2番目に低い結果となりました。

図表：運動やスポーツを行う頻度（前回調査との比較）

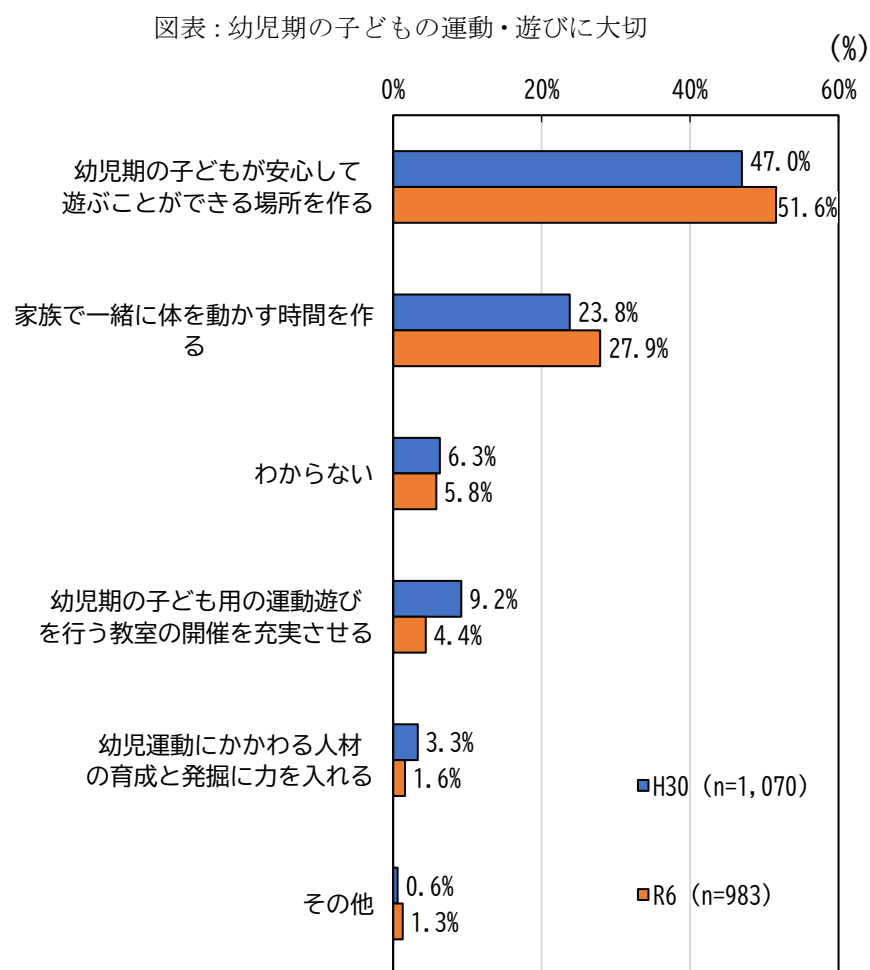
	H25	H30	今回
ほぼ毎日	7.0%	6.3%	11.2%
週に4～5回	7.7%	6.6%	8.6%
週に2～3回	15.1%	18.0%	15.8%
週に1回	13.1%	13.0%	16.5%
月に1回以上	13.6%	12.4%	12.7%
年に1回以上	8.2%	8.0%	6.6%
まったくしていない	32.4%	34.7%	28.1%
不明・無回答	2.9%	0.9%	0.5%
調査数	977	1,070	983
週1回以上運動・スポーツを行った人の割合	42.9%	43.9%	52.1%

図表：年齢別 運動やスポーツを行う頻度



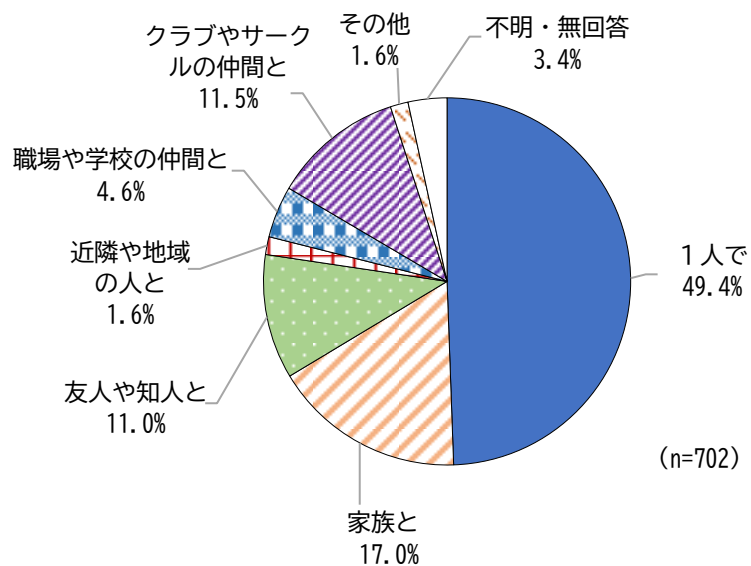
②幼児期の子どもの運動・遊びについて

▶「幼児期の子どもの「運動・遊び」に大切なもの」の間では、「幼児期の子どもが安心して遊ぶことができる場所を作る」と考えている人が51.6%と最も多く、次いで、「家族と一緒に体を動かす時間を作る」が27.9%、「幼児期の子ども用の運動遊びを行う教室の開催を充実させる」が4.4%となっています。



③何人でスポーツをするのか（半数近くが1人でスポーツを実施）

▶一緒に運動やスポーツを行っている人については、「1人で」が49.4%と最も多く、半数近くを占めています。次いで、「家族と」が17.0%、「友人や知人と」が11.0%となっています。

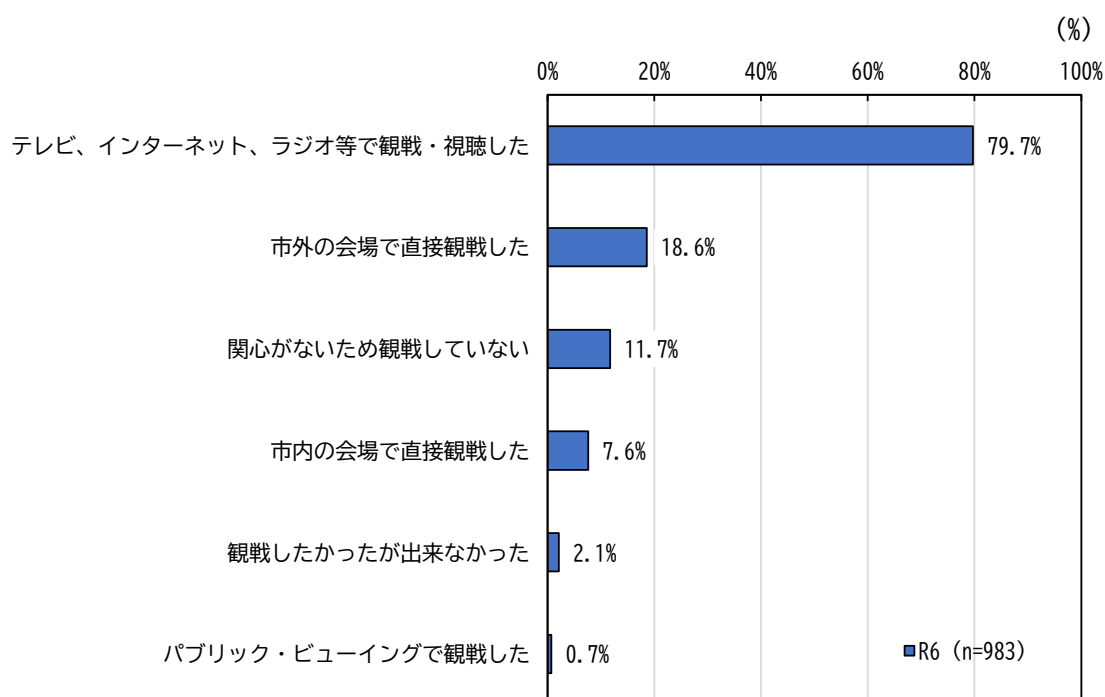


(2) みるスポーツ

①スポーツ観戦の機会

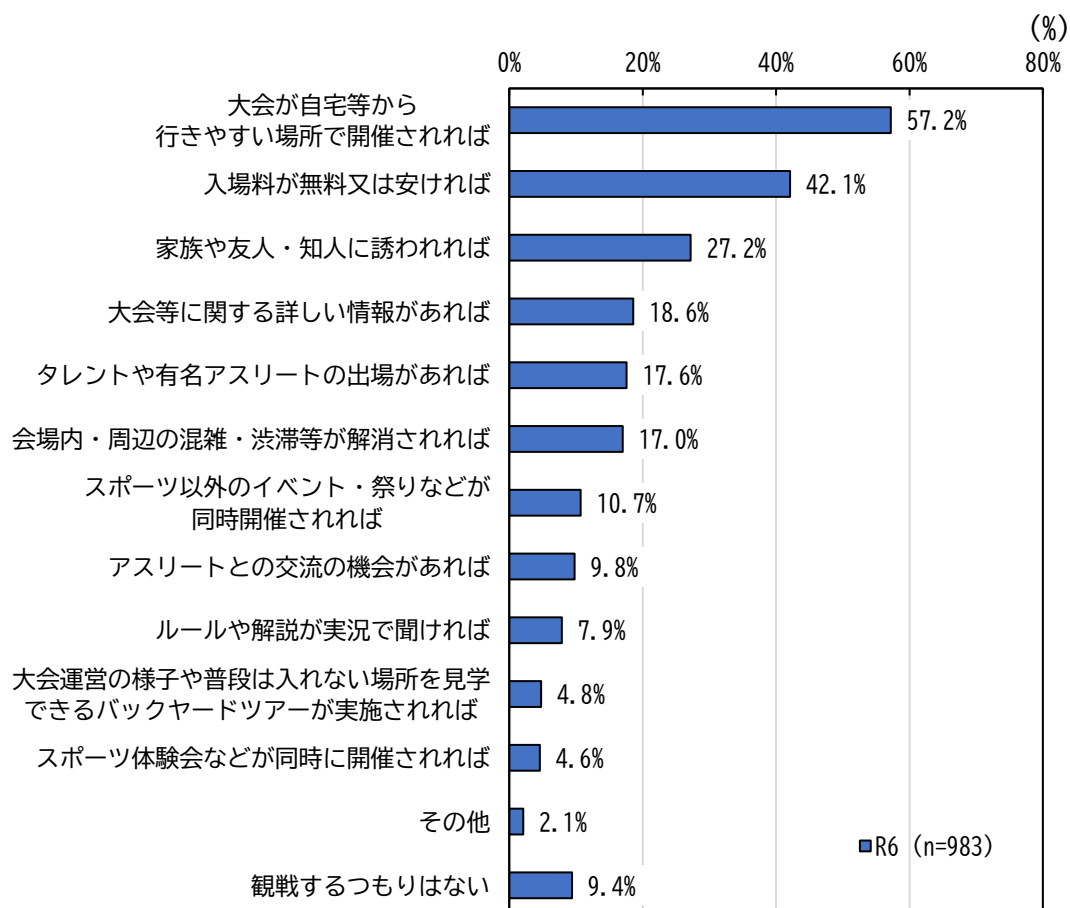
▶スポーツを観戦した機会について、「テレビ、インターネット、ラジオ等で観戦・視聴した」が79.7%と最も多く、次いで「市外の会場で直接観戦した」が18.6%、「関心がないため観戦していない」が11.7%となっています。直接観戦した人（「市内の会場で直接観戦した」及び「市外の会場で直接観戦した」の合算）は26.2%で、市内より市外の会場で観戦が多くなっています。

図表：スポーツ観戦の機会



②観戦するための改善点

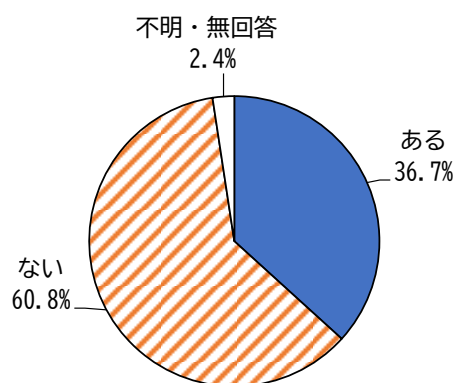
▶どのような取組み・工夫があればスポーツを実際に（さらに）観戦してみようと思うかについては、「大会が自宅等から行きやすい場所で開催されれば」が57.2%と最も高多く、次いで「入場料が無料又は安ければ」が42.1%、「家族・友人に誘われれば」が27.2%となっています。



(3) ささえるスポーツ

①スポーツボランティアへの関心・参加状況

▶ボランティアに関心がある又は参加したことがあるかについては、「ある」が36.7%となっています。

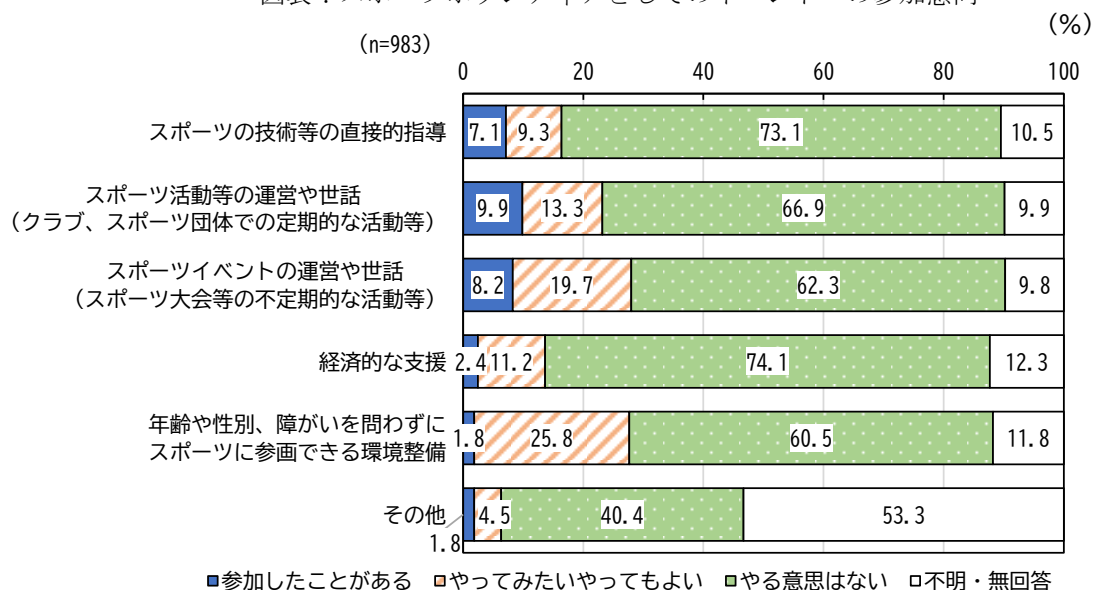


R6 (n=983)

②スポーツに関する様々な関わり方

- ▶スポーツボランティアとしてのイベントへの参加意向をみると、「やる意思はない」がいずれの分野でも最も多く、「経済的な支援」の74.1%と「スポーツの技術等の直接的指導」の73.1%が特に多くなっています。
- ▶参加したことがあると回答した人の割合はいずれの分野でも1割未満ですが、「スポーツ活動等の運営や世話(クラブ、スポーツ団体での定期的な活動等)」は9.9%となっています。
- ▶やってみたい又はやってみてもよい活動としては、「年齢や性別、障がい問わずにスポーツに参画できる環境整備」が25.8%となっています。

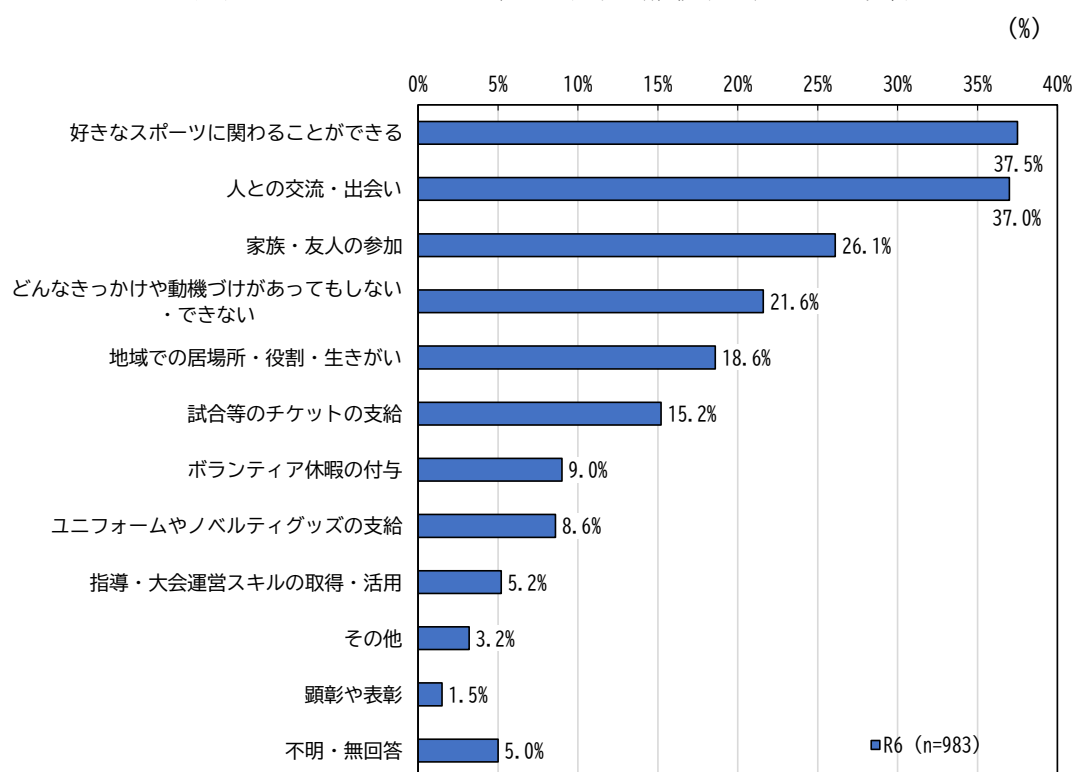
図表：スポーツボランティアとしてのイベントへの参加意向



③スポーツボランティアを行うための改善点

- ▶スポーツボランティアの実施・継続に必要なきっかけや動機づけ（モチベーション）としては、「好きなスポーツに関わることができる」が37.5%と最も多く、次いで「人との交流・出会い」が37.0%、「家族・友人の参加」が26.1%となっています。
- ▶一方、「どんなきっかけや動機づけがあってもしない・できない」と回答した人は21.6%となっています。

図表：スポーツボランティアを行う（継続する）ための改善点



(4) つながるスポーツ

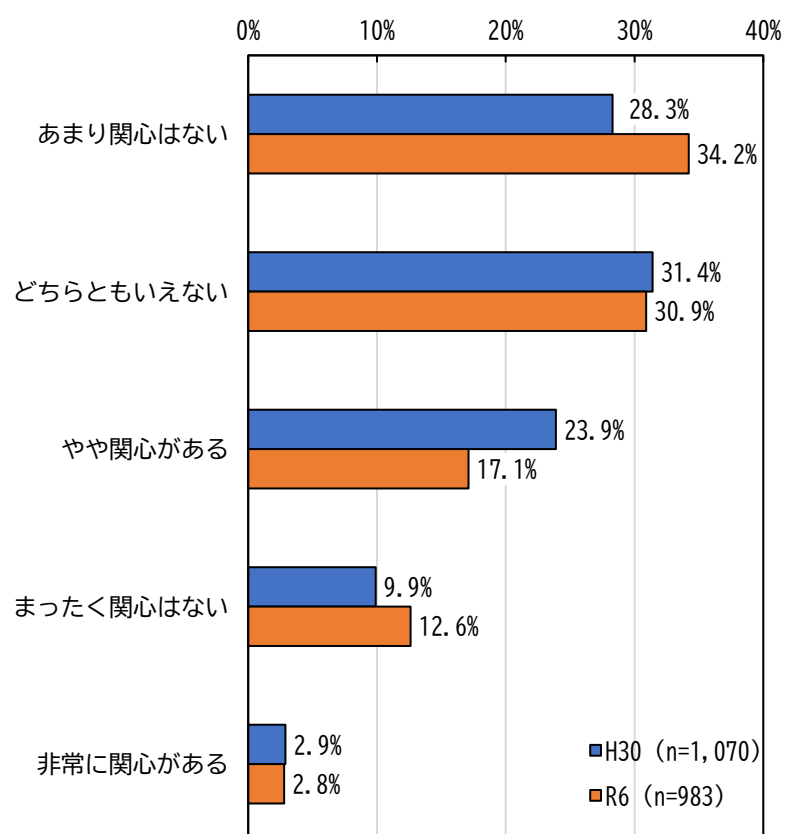
①障がい者スポーツについて

▶障がい者スポーツへの関心をみると、「あまり関心はない」が34.2%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が30.9%、「やや関心がある」が17.1%となっています。

『関心がある』（「非常に関心がある」と「やや関心がある」の合計）人は19.9%、
『関心はない』（「まったく関心はない」と「あまり関心はない」の合計）人は46.8%となっています。

図表：障がい者スポーツへの関心

(%)

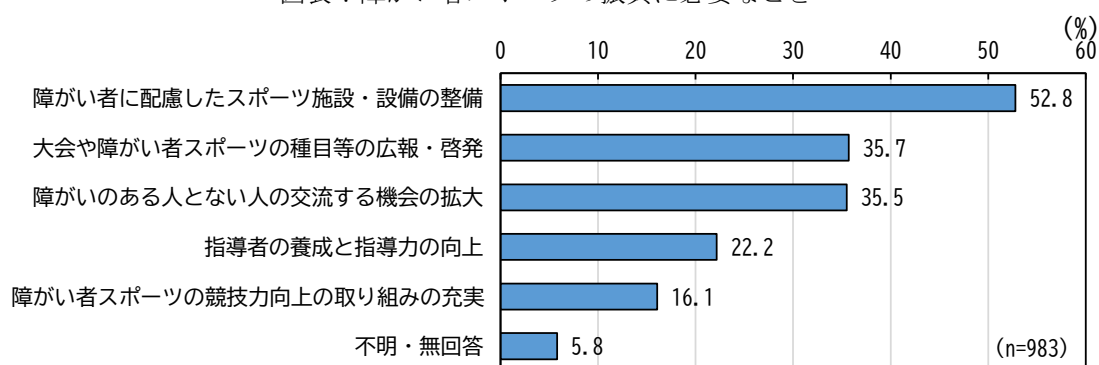


②障がい者スポーツの振興に必要なこと

▶障がい者スポーツの振興のために必要なことについては、「障がい者に配慮したスポーツ施設・設備の整備」が52.8%と最も多く、次いで「大会や障がい者スポーツの種目等の広報・啓発」が35.7%、「障がいのある人となない人の交流する機会の拡大」が35.5%などとなっています。

過去調査と比較すると、「大会や障がい者スポーツの種目等の広報・啓発」や「障がいのある人となない人の交流する機会の拡大」、「障がい者スポーツの競技力向上の取組みの充実」など、施設整備以外の取組みの割合が増加しています。

図表：障がい者スポーツの振興に必要なこと



◆過去調査との比較

	H25	H30	今回
大会や障がい者スポーツの種目等の広報・啓発	33.0%	34.2%	35.7%
障がいのある人となない人の交流する機会の拡大	31.3%	30.5%	35.5%
指導者の養成と指導力の向上	23.7%	25.6%	22.2%
障がい者スポーツの競技力向上の取組みの充実	13.3%	16.7%	16.1%
障がい者に配慮したスポーツ施設・設備の整備	54.0%	54.7%	52.8%
必要ない	-	2.8%	-
調査数	977	1,070	983

注：平成30年度調査のみ「必要ない」の選択肢あり



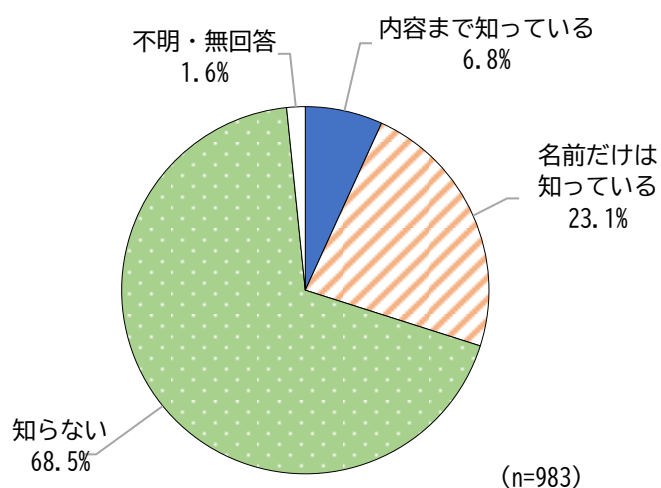
(5) その他の指標

①総合型地域スポーツクラブの認知度

- ▶「総合型地域スポーツクラブ」の認知度については、「知らない」が68.5%と最も多く、次いで「名前だけは知っている」が23.1%、「内容まで知っている」が6.8%となっています。

「総合型地域スポーツクラブ」の知名度（「名前だけは知っている」と「内容まで知っている」の合計）は29.9%です。

過去調査と比較すると、変動があるものの、「内容まで知っている」人の割合（認知度）がやや増加しています。



◆過去調査との比較

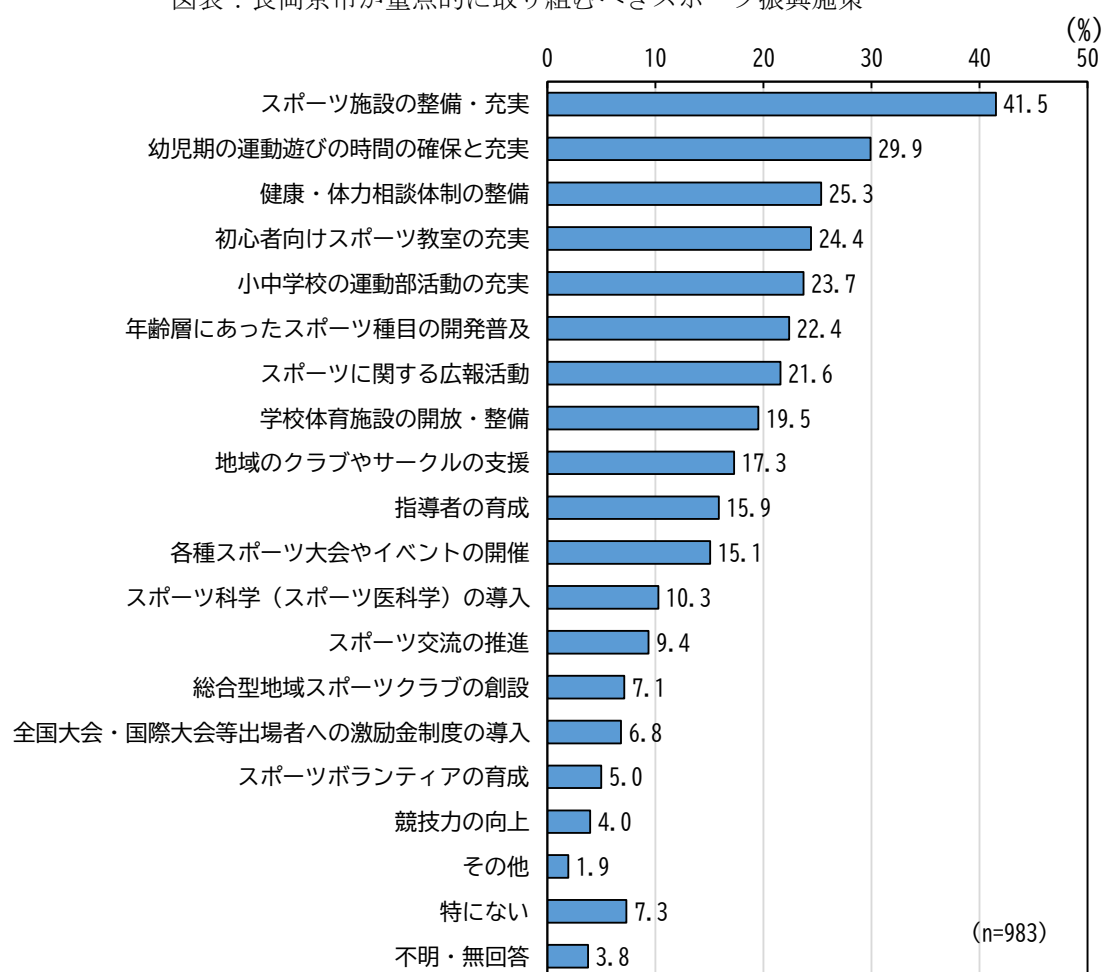
	H25	H30	今回
内容まで知っている (①)	5.1%	3.2%	6.8%
名前だけは知っている (②)	26.3%	17.9%	23.1%
知らない	68.6%	76.6%	68.5%
不明・無回答	0.0%	2.2%	1.6%
調査数	977	1,070	983
知名度 (①+②)	31.4%	22.1%	29.9%

②重点的に取り組むべき施策

▶新たなスポーツ推進計画策定に向けて、今後のスポーツ振興のために、特に長岡京市として取り組むべき施策としては、「スポーツ施設の整備・充実」が41.5%と最も多く、次いで「幼児期の運動遊びの時間の確保と充実」が29.9%、「健康・体力相談体制の整備」が25.3%となっています。

スポーツをする場や機会の充実、幼児期も含めた子どものスポーツ推進、健康・スポーツに関する相談や広報活動の充実、スポーツをはじめるきっかけとなる機会やコンテンツの提供などを望む声が多くなっています。

図表：長岡京市が重点的に取り組むべきスポーツ振興施策



長岡京市で
スポーツができる
施設や主な公園マップ

	スポーツ施設 及び公園	体育館	グラウンド	テニスコート	公園・広場	住 所	TEL
①	西山公園体育館	●				長法寺谷山1番地	075-953-1161
②	スポーツセンター	●	●	●		神足下八ノ坪1番地	075-951-3363
③	京都府立洛西浄化センター公園		●	●	●	勝竜寺山崎作り20-5	075-951-9161
④	粟生畑ヶ田公園				●	粟生畑ヶ田地内	公園緑地課 (075-955-9716)
⑤	西山公園				●	長岡京市長法寺谷田9番地	
⑥	西代里山公園				●	長岡京市奥海印寺西代6-2	
⑦	こがねが丘ホテル公園				●	高台1丁目地内	
⑧	長岡公園		●	●	●	天神2丁目地内	
⑨	神足公園		●	●	●	東神足2丁目地内	
⑩	下海印寺西条公園				●	下海印寺西条地内	
⑪	勝竜寺城公園				●	長岡京市勝竜寺13-1	学校開放事業の 問合せ先 文化・スポーツ 振興課 (075-955-9735)
⑫	調子馬ノ池公園				●	調子2丁目地内	
⑬	長岡中学校	●				天神4丁目5-1	
⑭	長岡第二中学校	●				今里5丁目20-1	
⑮	長岡第三中学校	●				勝竜寺28-1	
⑯	長岡第四中学校	●				下海印寺西山田1-1	
⑰	神足小学校	●	●			神足3丁目2-1	
⑱	長法寺小学校	●	●			長法寺川原谷31	
⑲	長岡第三小学校	●	●			今里4丁目5-10	
⑳	長岡第四小学校	●	●			友岡1丁目2-4	
㉑	長岡第五小学校	●	●			下海印寺東山1	東ポンプ場跡地に 整備予定
㉒	長岡第六小学校	●	●			長岡2丁目3-1	
㉓	長岡第七小学校	●	●			今里北ノ町35	
㉔	長岡第八小学校	●	●			勝竜寺29-1	
㉕	長岡第九小学校	●	●			東神足2丁目17-1	
㉖	長岡第十小学校	●	●			井ノ内玉ノ上22	
㉗	防災・スポーツ施設	●			●	勝竜寺八ノ坪	



第2期長岡京市スポーツ推進計画

長岡京市教育委員会 文化・スポーツ振興課

〒617-8501 長岡京市開田1-1-1

電 話 075-955-9735

FAX 075-955-3150

bunka-sports@city.nagaokakyo.lg.jp